

2007 年度 年次報告・決算報告

2008 年度 年次計画・収支予算



SNAPLA  
NEER

## 目次

3	……………	はじめに
4	……………	中期方針（2007-2011）の進捗状況
6	……………	2007 年度概観と 2008 年度にめざすもの
7	……………	各活動の状況
8	……………	海外プロジェクト一覧
10	……………	特集 バングラデシュ サイクロン救援・復興活動
12	……………	2007 年度活動報告および 2008 年度活動計画
36	……………	2007 年度決算および 2008 年度収支予算
42	……………	2008 年度役員一覧
43	……………	主な掲載記事
44	……………	シャプラニール用語集 (本文中の※印は用語集に説明があります)

# はじめに

シャプラニールでは、西暦の末尾が7の年に大事件が起こるとされ、2007年度から代表理事になった私は、戦々恐々でこの一年を過ごしました。幸いなことに組織的な大事は起こりませんでした。バングラデシュでは11月に大きなサイクロンが南西部を襲い、甚大な被害が出ました。即座に緊急救援に取りかかりましたが、その際、気にかかったのは活動資金でした。メディアでは世界各地で頻発する地震、洪水などの自然災害のニュースがひっきりなしに流れ、救援募金はそのたびに呼びかけられます。人々に援助疲れがあるのでは、と案じたのですが、それは杞憂に終わり、結局4000万円を超える募金が寄せられました。改めて御礼を申し上げます。

今回特に印象的だったのは、個人的なご寄付に加えて、会員、支持者の皆さんが間に立って、様々な団体や企業からの寄付を運び込んで下さったことです。シャプラニールは会員、支持者、ボランティアの層がとても厚く、ひとたび何あると駆けつけてくれるという方の顔を思い浮かべたら、なかなかその数が尽きません。市民による海外協力という看板を堂々と掲げていられるのは、まさにこのことによるのです。

他方、2007年度は日本のODA額が減ったことが話題になりました。国際的影響力を維持するために増額が必要という声はあっても、「役に立つから増やすべき」という意見は市民の中からほとんど出てきません。「援助は本当に役に立つのか？」これに答えるには、援助が役に立つとはどういうことなのかが、まず明らかにされなくてはなりません。現場を持つNGOには、それを身をもって示し、世に問うていく義務があります。公共サービスの評価という点では、国内課題とも直結しています。シャプラニールは常にそうした視点を持ちながら現場に関わり、かつ問題提起してきました。だからこそ、これほどの熱心で粘り強い支持者を得てきたのです。

その一方で、経験則を積み上げただけの従来の方法では、状況の急速な変化に対応できにくく、現地のスタッフたちから、手探り手法の限界が指摘されています。特に直接支援方式からパートナーシップ方式に完全に転換した今、組織としての活動方針と方法をより明確にできなければ、パートナー団体に混乱を与えることになります。

2007年度は、前年度作った中期方針に基づいて、国内でも海外でも、そして内に対しても外に対しても、個々の活動の意義と方法をしっかり示していけるような仕組みを作り直そうと動き出しました。2008年度はそれを完成させ、運用面での充実を図っていきます。

最後に、ひとつ残念なお知らせがあります。1991年に事務局スタッフとして加わり、2002年から事務局長の重責を担って獅子奮迅の活躍をしてくれた坂口和隆さんが、この6月末をもって事務局を離れることになりました。長年のご苦勞をねぎらうとともに、さらなるご活躍をお祈りします。

押し寄せる経済のグローバル化と複雑で流動的な政治状況との間で、南アジアは大きく揺れ続けています。ネパールではマオイスト政党が総選挙で第一党になるという、だれも予想しなかった事態が訪れました。この原稿を書いているさなか、バングラデシュのお隣のミャンマー沿岸部が巨大サイクロンに襲われ、空前の大災害となっているとのニュースが飛び込んできました。また、中国では1000万人が被災すると言う大規模な地震に見舞われています。南アジアの国ではありませんが、今後の動向に目が離せません。

シャプラニールは、2008年度も大きな視野に立ちながらも、身の回りのひとつひとつのことを大切に活動に取り組んでいく所存です。皆さまの一層のご参加を心から期待しております。

2008年6月 代表理事



# 中期方針（2007～2011）の進捗状況

2007年度会員総会において承認された「中期方針（2007～2011）」は、5カ年の会の活動の方向性を謳ったもので、8つの基本方針が掲げられている。2007年度はこの基本方針に従って、5年間の具体的な活動計画と財務計画を立案した。ここでは、2007年度の各方針の進捗状況について、主だったものを報告している。今年度以降、毎年の総会において進捗の報告を行い、中間年である2009年度には見直しを行う予定としている。

## 基本方針

<p>1. 「取り残された人々」への取り組みを強化します</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎海外活動戦略を策定</li> <li>◎バングラデシュでは女性と青少年少女へ</li> <li>◎サイクロンの復興支援として特に青少</li> <li>◎ネパールでは貧困層に配慮した防災グ</li> <li>◎インドでは女性への取り組みを継続中</li> </ul>
<p>2. 「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々にも積極的に働きかけていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎バングラデシュでは農村部での働く子いでも地域住民からの物品寄付などを得と協力が増してきた。</li> <li>◎ネパールでは働く子どもたち支援活動</li> </ul>
<p>3. 日本のわたしたちも当事者という認識とそれに基づいた行動を広げていくために、情報発信や具体的な活動の場やしぐみを創っていきます</p> <p>(ア) 市民による海外協力の輪を広げる          (イ) 社会構造を変えるための提言・行動          (ウ) 私たちの生活のあり方の問い直し          (エ) 国際機関、行政、企業との連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎国内活動行動指針を策定</li> <li>◎エコバッグなど市民が暮らしをよくすアも直接スタッフが出向いて意義を説明</li> <li>◎ステナイ生活の輪は着実に拡大しておれるケースも出てきており、言葉も定着</li> <li>◎共生を分かりやすく説明するキャッチ</li> <li>◎全国キャラバンやスタッフ研修を通し</li> </ul>
<p>4. 媒介者として当事者同士の経験交流やネットワーキングに努めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎サイクロン被災地と洪水常襲地との青</li> <li>◎高齢者、寡婦、障がい者、家事使用人</li> </ul>
<p>5. 「生産者の生活向上」を第一としてクラフトリンクの活動を進めていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生産者の生活向上のための販売拡大に販売額は2006年度から約12%の伸びを</li> <li>◎フェアトレード団体としての存在感を</li> <li>◎「トラカムバック」のキャンペーンを</li> </ul>
<p>6. 「取り残された人々」の現実および問題の構造を深く理解し、それを適切に支援していくための技能を高めていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎海外活動ガイドラインの中で、パート</li> </ul>
<p>7. これまで力を入れてこなかった他の分野・地域についても可能性を探ります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「2008年G8サミットNGOフォーラ</li> <li>◎サイクロン復興活動を通して、災害常</li> </ul>
<p>8. 理解者・支援者を増やし組織を一層充実させます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎活動への参加の敷居を低くするため、マンスリーサポーターは2006年度から</li> <li>◎シャプラニールの活動をより多くの市</li> <li>◎職員の働く環境を整備するための長期</li> <li>◎情報セキュリティ規程を策定した。</li> </ul>

## 現在の進捗状況

## 詳細掲載ページ

<p>の取り組みを強化 年グループを中心とした活動を計画中 ループの育成を開始</p>	<p>P 7 P 8-9 P 10-11 P 12-21</p>
<p>どもたち支援で地域住民からの協力を得られたほか、ストリートチルドレン支援につ られるようになってきている。家事使用人支援については雇用主の活動に対する理解 の中で、地域社会（雇用主や住民）との協働を進めていく。</p>	<p>P 12-21</p>
<p>るために参加できるクラフトリンクのあり方が定着しつつある。フェアトレード・フェ する機会にできた。シャプラニールならではのフェアトレードを社会に向けて発信した。 り、雑誌などで「リサイクルによる海外協力 = ステナイ生活」という捉え方で紹介さ してきている。また、キャンペーンを通して企業との協働が進んだ。 コピー（タグライン※）と文章（ブランドステートメント※）を作成している。 て、国内の NPO や市民活動団体との連携の可能性を探っている。</p>	<p>P 26-29</p>
<p>少年グループ同士の交流を検討中。 など「取り残された人々」の当事者間の経験交流の試みが各プロジェクトで行われた。</p>	<p>P 10-11 P 12-21</p>
<p>向けて、デザイン力・販売力・顧客サービスの向上などに力を入れている。 見せた。 高めるため、研究会などへの参加と積極的な発言に心がけている。 実施し、新しい顧客層にアプローチできた。</p>	<p>P 22-25</p>
<p>ナーシップについてのポリシーを策定した。</p>	<p>P 7</p>
<p>ム」に参加する中で、アドボカシー分野についての経験の蓄積を図っている。 襲地である沿岸部での通常活動の可能性を探っていく。</p>	<p>P 10-11 P 26-29</p>
<p>マンスリーサポーターの拡大や認定 NPO 法人申請などに取り組んでいる。 57 人（7%）増加した。 民に伝えるため、メディアへのアプローチを強化している。 研修制度を設けた。</p>	<p>P 26-29 P 30-31</p>

# 2007 年度概観と 2008 年度にめざすもの

## 2007 年度の概観

### 1. バングラデシュ

- ・農村部での洪水、沿岸部におけるサイクロンの被災者に対する緊急救援活動を実施した。
- ・「取り残された人々」への支援を質・量ともに拡大した。

### 2. ネパール

- ・貧困層に配慮した地域防災活動を開始し、防災グループを結成した。
- ・8年半に及ぶ都市部での住民組織の自立支援活動が終了した。
- ・ストリートチルドレン支援活動が計画より早期に終了した。

### 3. インド

- ・家政婦として働く女性への支援を本格化、女性たちへのインタビューを記録集としてまとめた。

### 4. クラフトリンク

- ・トラ保護キャンペーンに賛同した形でトラカムバックの販売を開始、好評を博した。
- ・フェアトレードへの関心の高まりを受け、全国でフェアトレード・フェアを行うほか、他団体とのネットワーキングに努めた。

### 5. 国内活動・組織

- ・国内活動行動指針をまとめた。
- ・ステナイ生活のキャンペーンを行い、企業や団体との協働をより一層推し進めた。
- ・35周年記念のフォーラムを開催し、シャプラニールの今を伝えた。

## 2008 年度にめざすもの

### 1. バングラデシュ

- ・サイクロン復興支援活動を1年半の計画で実施する。
- ・農村部で青少年少女グループの育成と高齢者への働きかけを強化する。
- ・ストリートチルドレン支援活動の最終年度として、次期新規プロジェクトを立案する。

### 2. ネパール

- ・貧困女性の生活向上を支援するための新規プロジェクトを立案する。
- ・地域防災活動において、ハザードマップ(防災地図)づくりを進める。

### 3. インド

- ・今後の活動の方向性や内容を明確にするための戦略を策定する。

### 4. クラフトリンク

- ・企業、団体に対して積極的にアプローチし、特別注文を拡大させる。
- ・業務全般の信頼度、正確さを高めることに注力する。

### 5. 国内活動・組織

- ・地域での活動者が集うイベントを実施する。
- ・ステナイ生活のキャッチコピーやロゴを作成し、より多くの協力者を得ていく。
- ・職員の労働環境を整備する。

# 各活動の状況

## (1) 海外活動

2007年度は今後5年間の方向性を示す中期方針が策定されたことから、バングラデシュ、ネパール、インドで取り組んでいる活動の現状を確認、分析し、海外活動全体の組み立てを検討する作業に積極的に取り組んだ。

その結果、個別の各プロジェクトにおいて克服すべき課題が浮き彫りになったと同時に、シャプラニールの海外活動全体を貫く理念を再確認し、中期方針に沿った形で業務を平準化し、一層充実させるためのツールが必要だという認識に至った。そこで全駐在員を含む海外活動担当職員が中心となり、「海外活動ガイドライン」を策定した。ここには2000年度に策定された「海外活動行動指針」の改訂版として位置づけられる項目だけでなく、現地のNGOらとパートナーシップを結ぶ際に確認すべき事項やプロジェクトの立案・実施・終了にあたって参照すべきチェックリストも新たに盛り込まれた。

今後、このガイドラインがシャプラニールのすべてのスタッフ、関係者と共有されることにより、海外の現場での活動を通じて実現すべき理想と方法論がより明らかになることが期待される。

こうした事務的な作業に加え、バングラデシュにおけるサイクロン被災者への救援活動、ネパールでのストリートチルドレン<sup>※</sup>支援活動の早期終了にかかる諸々の業務に忙殺され、個別の各プロジェクトの実施状況に大きな改善や変化は見られずに終わった。

## (2) クラフトリンク

フェアトレード<sup>※</sup>に対する関心の高まりは確かな流れとなっている。フェアトレードに関する書籍が相次いで発行され、マスコミに取り上げられる機会も確実に増えている。その追い風もあってクラフトリンクの売上も順調に推移しているが、注目が集まればそれだけ厳しい目で見られることにもなる。2008年度は運営体制の強化あるいは品質管理基準の策定など、活動の基礎を固め、信頼度を高めるための取組に注力する。

また、他の農村開発プロジェクト等と同じように、我々の活動が現地の生産者やパートナー団体に対してどのような効果をもたらしているのかを体系的に把握する必要性を感じている。2008年度中に定期的なモニタリングや評価活動に着手する予定であり、活動の成果を確認すると共に、その内容を広く伝えていきたい。

日本におけるフェアトレードの市場規模は欧米に比してまだまだ小さく、我々の活動を広げるためにも、その普及に努める必要がある。日本でフェアトレードに取り組む団体間のネットワークも徐々にできつつあり、協働の可能性を積極的に考えていく。

## (3) 国内活動

35周年を迎えた2007年度、予想を超える多くの方々への参加のもと、記念フォーラムが行われた。シャプラニールが会員や支援者によって成り立つ団体であることを再認識することができた。

ここ数年、インターネットなどの情報伝達手段を使っでの広報戦略が功を奏している。また、企業との協働事例も増えてきており、シャプラニールの知名度も徐々に上がってきている。同時に、マスコミへの情報提供を頻繁に行うことで新聞や雑誌に取り上げられることも多くなっている。

一方、こうした業務が多くなるにつれ国内における運動的な側面が弱まってきていると指摘を受けることも多くなった。主体的に運動に参加する人たちが活動しやすい仕組みをどう作っていくのか、そもそも国内活動は何を目指すのか、こういった議論を重ね「国内活動行動指針」が策定された。

また、お金や物品による寄付も国際協力の参加の一形態であるとの認識のもと、「ステナイ生活」「マンスリーサポーター」への取り組みにも力を入れている。

# 海外プロジェクト一覧 (2007年度)

## バングラデシュ

### 農村貧困層の生活向上支援活動

農村貧困層、とりわけ行政や他のNGOからも支援が届いていない最貧困層に注目し、グループや世帯単位での様々な支援活動を実施。

●活動地域：

ノルシンディ県ベラボー、ライプラ郡および周辺地域

マイメンシン県イシヨルゴンジ郡

マニクゴンジ県ギオール郡、ドウロトプール郡

●活動内容：グループ（ショミティ）育成、貯蓄機会の提供、寡婦を含む最貧困層へのソーシャルワーク、成人識字学級、保健衛生知識の普及、手押しポンプ井戸・簡易衛生トイレの設置、ヒ素汚染対策、伝統的助産婦育成、マイクロクレジットの供与、収入向上技術研修、各種キャンペーン

●裨益者数：20,225人

●パートナー：PAPRI、COLI、STEP

### 農村地域の課題に対応する支援活動

貧困層だけでなく、様々な社会階層やセクターに属する人々への幅広い働きかけを行うことで、各地域の抱える課題を共有し、解決に向けての役割分担を検討できるようにする。

●活動地域：

ノルシンディ県ベラボー、ライプラ郡および周辺地域

マイメンシン県イシヨルゴンジ郡

マニクゴンジ県ギオール郡、ドウロトプール郡

●活動内容：少年少女グループ育成、行政との連携、障がい者支援、高齢者支援、児童教育

●裨益者数：6,870人

●パートナー：PAPRI、COLI、STEP

### 農村部における働く子どもたちへの支援

貧困などを理由に、市場（バザール）の各種店舗で早朝から深夜まで働かざるを得ない状況にある子どもたちへの支援を、雇用主の理解を得つつ実施。

●活動地域：

ノルシンディ県県庁所在地

マイメンシン県イシヨルゴンジ郡

●活動内容：支援センターの設置・運営、雇用主へのソーシャルワーク

●裨益者数：200人

●パートナー：PAPRI、COLI

### 家事使用人として働く少女支援活動

雇用主や地域住民の理解を得るための活動と同時に、少女たちのニーズにあわせたヘルプセンターの運営を行う。

●活動地域：ダッカ市内コライル地区、パイクバラ地区

●活動内容：ヘルプセンターの設置・運営、ノンフォーマル教育、性教育、技術研修、レクリエーション、雇用主・地域住民へのソーシャルワーク

●裨益者数：179人

●パートナー：Phulki

### ストリートチルドレン支援活動

路上で働き、暮らしている子どもたちを大人による搾取や虐待から保護し、自ら生活を向上していけるようになるために必要な支援を実施。

●活動地域：ダッカ市内サイダバッド地区、ジャットラバリ地区

●活動内容：ストリートスクール運営、ドロップイン・センター兼シェルター運営、給食サービス、ノンフォーマル教育、職業訓練、地域住民へのソーシャルワーク

●裨益者数：996人

●パートナー：Aparajeyo-Bangladesh

### 洪水被災者救援活動

2004年以來となる夏期の大洪水に際し、行政や他団体による救援活動から取り残されていたノルシンディ県の中洲（チョール）地域にて、最貧困層に限定した食糧配布を行った。

●裨益者数：171世帯

●パートナー：PAPRI

### サイクロン被災者救援・復興支援活動

1991年以來となる大規模なサイクロンによって被災した地域の人々に対し、被災直後から約3ヵ月間にわたり食糧や衣料、簡易シェルター用ビニールシートの配布、保健衛生、子ども支援センターの設置・運営、などを緊急救援活動として実施。平行して中長期の復興支援活動の立案も行い、一部である教育支援（教科書、参考書配布）を3月に行った。

●裨益者数：13,166世帯

●パートナー：JJS、Sangkalpa Trust、SANGRAM、KSSS、CDP

## ネパール

### 貧困層に配慮した地域防災支援活動

洪水被害の頻発する地域の一つであるチトワン郡において、防災意識の普及、小規模な洪水対策インフラの整備と同時に貧困層の収入向上活動に取り組むことで、災害時に最も深刻な被害を受ける人々の生活が守られるようになることを目指している。

- 活動地域：チトワン郡クムロジ地区、コピラシ地区
- 活動内容：防災グループの育成、災害に関する研修、収入向上技術研修
- 裨益者数：390 世帯
- パートナー：RRN

### カトマンズ低所得者層自立支援活動

プロジェクト終了後も女性グループが自ら活動を継続できるよう、協同組合登録を目指し、必要な能力向上に取り組む。(2008年3月終了)

- 活動地域：カトマンズ市、ラリトプール市、キルティプール市
- 活動内容：女性グループ育成、グループ運営研修、成人識字学級、収入向上技術研修
- 裨益者数：252 人
- パートナー：SOUP

### 働く子ども支援活動

レストランや乗り合いバス、家事使用人として働く子どもたちを搾取と虐待から遠ざけ、安全な生活環境をつくりだすための諸活動を実施。

- 活動地域：ラリトプール市
- 活動内容：移動学級、巡回診療、ノンフォーマル教育、法的支援、職業訓練、市民証取得支援、カウンセリング、奨学金支給
- 裨益者数：457 人
- パートナー：CAPCRON

### ストリートチルドレン支援活動

自らもストリートチルドレンだった若者が立ち上げた NGO をパートナーに、寝泊まりもできる拠点としてのシェルターを設置、運営。(2007年7月終了)

- 活動地域：ラリトプール市
- 活動内容：「みんなの家（シェルター）」運営、くず買い取り場・食堂運営、フィールド巡回、ノンフォーマル教育
- 裨益者数：242 人（2006年度来所実績）
- パートナー：JAFON

## インド

### 子どもたちによる環境学習支援活動

環境に関する意識を高め、各地域でグループごとに自ら取り組める活動に関し、必要な支援を実施。

- 活動地域：西ベンガル州
- 活動内容：環境学習グループ育成、研修
- 裨益者数：630 人
- パートナー：DRCSC

### 家政婦として働く女性支援活動

家政婦が通勤に利用する駅の近くにドロップインセンターを設置し、個別の相談に応じたり、法的なケアが必要な場合には専門的な支援も行う。

- 活動地域：コルカタ市
- 活動内容：ドロップインセンター運営、出張相談、法的支援、カウンセリング
- 裨益者数：202 人
- パートナー：PARICHITI

## 特集

# バングラデシュ サイクロン救援・復興活動

## 被害の全体状況と

### シャプラニールの対応

2007年11月15日夜にバングラデシュ南西沿岸部を襲ったサイクロン「シドル (SIDR)」は大きな爪痕を残した。被災者は政府の公式発表で892万人、死者3,363人、行方不明者871人、被災家屋150万棟以上とされている。シャプラニールでは、災害救援活動に多くの経験と知見を有する現地スタッフを現場に派遣し、初期調査を実施した上で11月21日に第一次緊急救援活動を開始。東京事務所からも2回職員を現地に派遣し、迅速な活動計画の立案と実施に努めた。

サイクロンから半月が経過すると、被災地域の中でもメディアなどで注目され多くの救援活動が実施されている地域と、被害が大きかったにもかかわらず「取り残されている」地域・人々との格差が広がってきた。シャプラニールではこの状況に鑑み、被害は大きかったが報道などでもほとんど取り上げられず、結果的に救援が届いていないに等しかった地域での活動を実施した（第三次緊急救援活動）。この地域は宗教的・社会的マイノリティが多い、非常に貧しい地域でもあるため、被災者はたいへん厳しい状況に置かれており、活動実施は大きな意義のあるものとなった。

結果的に第四次まで続いた救援活動では、いずれも特に被害が大きく、かつ他の支援団体の救援活動がほとんど届いていない地域・被災者を対象とし、食糧や防寒具など緊急支援物資の配布のほか、安全な水の確保、被災した子どもたちに対する精神面も含めた支援センターの運営など、緊急に必要とされている活動を行った。

ショロンコラ郡内で被害の大きかったラエン、サウスカリの両ユニオン（行政村）において、住民が復興支援が必要としていることは何かを探るための調査を実施した。

このニーズ調査の結果を受け、バゲルハット県ショロンコラ郡サウスカリ・ユニオンにあるボクルトラ村の全世帯（615世帯、約3,000人）を対象に、1年半におよぶ中期的な復興支援活動に取り組む。まずは開発センター（Development Center）を建設し、そこを拠点にして以下の活動を実施する。なお、センター建設や池の掘削作業等では被災者に現金収入の機会も提供する予定。

## 緊急救援活動

フェーズ	活動内容	
第一次緊急救援活動	1,100世帯への食糧・衣料配布	食糧（1世帯あたり米10kg、衣料（1世帯あたりサリー
	池の浄化活動	池の水は飲用に用いるほ 倒木や家畜の死骸が池の る危険なものであった 250世帯。
	子ども支援センターの設置と運営	モングラ港周辺でセック ためのセンターを設置し、
第二次緊急救援活動	2,860世帯へのビニールシート およびロープ配布	簡易住居の屋根や壁とし
	58の池の浄化作業	第一次で行った池の浄化 せられたため、作業を継
	緊急用飲料水確保を目的とした 20基の井戸掘削	清潔な飲用水の確保は、 設置し、約600世帯が井
	50基の簡易トイレ設置	地面に穴を掘ってコンク
	310世帯への食糧配布	1世帯あたり米14kg、ダ
	1,507枚の毛布配布	
第三次緊急救援活動	455世帯への食糧配布	1世帯あたり米14kg、ダ
	1,361世帯への食糧配布	1世帯あたり米15kg、ダ
第四次緊急救援活動	700枚の毛布および女性用衣料 （サリー）551枚の配布	
	受験生への参考書、ノートの配布	568名の中等教育修了試 120名の上級中等教育修
	子ども支援センターの運営継続	セックスワーカーの子ど 計3カ月間とした。

## 復興支援活動

フェーズ	活動内容	
第一次復興支援活動	ニーズ調査	ショロンコラ郡内で被害 援が必要としていること
	中等教育機関に在籍中の生徒2,700人への 教材配布	教科書、ノート、数学の
第二次復興支援活動	上記ニーズ調査の結果を受け、1年半におよ ぶ中期的な復興支援活動に取り組む。まずは 開発センター（Development Center）を建設し、 そこを拠点にして次の活動を実施する。なお、 センター建設や池の掘削作業等では被災者に 現金収入の機会も提供する予定。	池の掘削と浄化装置の設 生計向上、思春期の少女 団の結成、情報ライブラ 家畜用ワクチン接種技術 ブの結成、返済条件を緩 レンタルによる農業支援、 成と配布、など



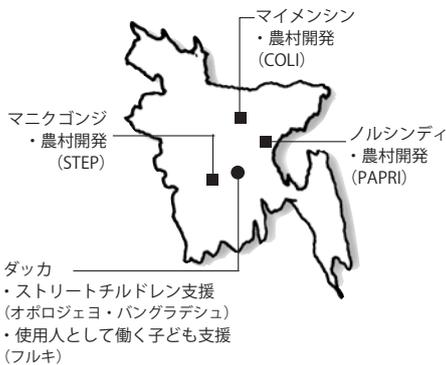
活動詳細	活動地域	パートナー団体
<p>ダール豆 2kg、大豆油 900ml、経口補水塩 5 パック、ろうそく 6 本、マッチ 2 箱、コップ 1 個 (女性の衣服となる一枚布) 1 枚、ルンギ(男性の腰巻布) 1 枚、毛布 1 枚)</p> <p>か、洗濯や行水など、生活全般の水資源として機能していたが、サイクロンにより表面を覆い尽くしてしまった。水が使えないだけでなく、伝染病の蔓延にもつながり、50 カ所ですて手作業による池の浄化作業を行った。この活動による受益世帯数は約</p>	バゲルハット県ショロンコラ郡	JJS (Jagrata Juba Shagha)
スワーカーとして働く女性たちの子ども 55 人を対象に、給食と心身のケアを行う 1 カ月間の運営を行った。	クルナ県ダコーブ郡	
て使用できるビニールシートを、特に貧困層の人々に対して配布した。	バゲルハット県ショロンコラ郡	
作業が好評で、近隣の住民から自分たちの地域でも実施してほしいという要望が寄せられた。約 580 世帯が生活用水を取り戻すことにつながった。		
コレラなどの伝染病を予防するためにも不可欠であったため、緊急に 20 基の井戸を戸を利用できるようになった。		
リート製のリングを埋め、周囲をビニールシートで覆った簡易トイレを 50 基設置。		
ール豆 1kg、塩 1kg、大豆油 900ml	ボルグナ県アムトリ郡 (ボロボギ村)、中央郡 (M. バリアトリ村)	Sangkalpa Trust
	ボルグナ県アムトリ郡、中央郡、パトルガタ郡 ポトゥアカリ県コラバラ郡 ピロジブール県マトバリア郡	
ール豆 1kg、塩 1kg、大豆油 900ml	ボルグナ県バムナ郡、中央郡	
ール豆 2kg、塩 1kg、大豆油 1,000ml、石けん 1 個	ゴバルゲンジ県コタリパラ郡	KSSS, CDP
験受験生に英語と数学の問題集を各 1 冊、ノート 3 冊 了試験受験生に英語と数学の参考書を各 1 冊、ノート 3 冊	バゲルハット県ショロンコラ郡	JJS
もたちを対象にした支援センターの運営を、当初の 1 カ月間から 2 カ月間延長し、	クルナ県ダコーブ郡	

パートナー団体の詳細は、20 ページをご覧ください。

活動詳細	活動地域	パートナー団体 (※)
の大きかったラエン、サウスカリの両ユニオン (行政村) において、住民が復興支は何かを探るための調査を実施した。	バゲルハット県ショロンコラ郡	JJS (Jagrata Juba Shagha)
教材をセットにして配布した。		
置、家庭菜園のデモ用スペースの開設、公園・遊具の設置、ミシン縫製研修による 300 名への衣料配布、幼児教室の開設、劇団による演劇上演活動、青少年による劇りーの設置、困窮家庭への少額の無償資金供与、11 月 15 日追悼記念行事の実施、研修、青少年グループの結成と育成 (地域変革の担い手として)、地域社会支援グループ和した小規模融資の供与、孤児養育家庭への支援、果樹と野菜の種子配布、耕運機緊急時の医療相談サービス、保健衛生や防災等に関する情報伝達・啓発用素材の作	バゲルハット県ショロンコラ郡 サウスカリユニオン・ボクルトラ村 全世帯 (615 世帯、約 3,000 人)	

パートナー団体の詳細は、20 ページをご覧ください。

# バングラデシュ



## パートナー団体紹介 (バングラデシュ・農村部)

**COLI**  
(コリ / Community Organization for Livelihood Improvement)

マイメンシン県イシヨルゴンジ郡にあったシャプラニールの3カ所の地域活動センターを拠点に活動するNGO。2005年にシャプラニールから独立。

**STEP**  
(ステップ / Step Towards Empowerment of the Poor)

マニクゴンジ県ギオール郡にあったシャプラニールの地域活動センターを元に活動を展開するNGO。2003年にシャプラニールから独立。

**PAPRI**  
(パプリ / Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives)

ノルシンディ県アムラボ郡、ライブラ郡にあったシャプラニールの2カ所の地域活動センターを元に活動を展開するNGO。1999年にシャプラニールから独立。



識字学級で学んだ女性たちが参加するエッセイコンテスト

## 2007 年度活動報告

2007年度は今後5年間の方向性を示す中期方針が策定されたことから、現行各プロジェクトの現状を確認し、海外活動全体の組み立てを検討する作業に積極的に取り組んだ。特に農村部では集中すべきこととそうでないことを見極め、活動を整理していく必要があることが分かり、対応策を検討した。しかしながら、2004年以降の洪水(8月)、そして1991年以降となるサイクロン(11月)被災者への大規模な緊急救援活動などに年度後半はかなりの労力と時間をとられ、具体的な取り組みの改善は2008年度に実施されることとなった。

### 1. 農村部での活動

パートナー団体：COLI(イシヨルゴンジ郡)、PAPRI(ベラボー郡、ライブラ郡)、STEP(ギオール郡、ドウロトプール郡)

#### (1) 貧困層の生活向上支援

貧困層の中でもとりわけ経済的、社会的に厳しい状況におかれ、行政や他のNGOからも取り残されている最貧困層\*の人々への支援活動を質・量ともに強化することに取り組んだ。地理的に周囲から隔絶された条件下にある大規模なチョール(中洲)\*\*地域での活動を含め、着実に生活改善につながる活動を実施することができた。以前は貯蓄をすることはもちろん、マイクロクレジット\*\*の融資を受け、定期的に返済することなど考えられなかった人々であったが、2007年度までに1,833の人々がある程度の貯金を積み立て、その多くがマイクロクレジットを活用した収入向上活動に取り組むことができるようになった。なお、農村部における新規プロジェクトの立案作業は、中期方針に基づく5カ年計画策定作業の中でスケジュールを改めて見直し、2009年度中に検討することとした。

#### (2) 地域の課題に対応する支援

活動している各地域において、さまざまな社会階層、セクターに属する人々へ幅広く働きかけを行い、より多くの当事者が自らの役割を自覚し、必要な行動を始められるようになることを目指し、少年少女グループの育成、高齢者集会の実施、村委員会やユニオン(行政村)との協働などを進めた。計112グループ、2,092人の少年少女への支援を行ったほか、高齢者集会にも2カ所で計255人が集まるなど、従来よりも規模を拡大して取り組むことができた。特に少年少女たちについては、同じ地域で生活する思春期の世代の子どもたちがグループとして集まることでお互いに刺激しあい、様々な形でユニークな活動を展開してくることができている。自然災害時等における献身的なボランティア活動や、自分たちが学んだことを表現し、問題提起をするための演劇活動などはその一例である。しかしながら、村委員会やユニオンとの協働関係の構築は形式的なものに留まり、思うような成果を挙げるができなかった。今後はこれまでの取り組みの中で蓄積してきた経験を整

理し、克服すべき課題をよく検討した上で、より実質的な成果が得られるような取り組みが求められる。

### (3) 働く子どもたち<sup>※</sup>への支援

地元商店主らの理解と協力を得てマイメンシン県イシヨルゴンジ郡に設置された11のセンター、および2006年度にノルシンディ県県庁所在地で始めた1カ所を含め、計12センター、200人の働く子どもたちへの支援を行った。前者は地域住民からの協力もあり、各センターの運営は活発に行われたが、後者は人口の多い地方都市ということもあって子どもたちの移動が激しく、また管理体制も十分でなかったため、低調に推移した。

## 2. 都市部での活動

### (1) ストリートチルドレン支援

パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh

ストリートスクール、およびドロップイン・センターの運営を従来通り実施し、それぞれ毎日平均55人と96人の利用があった。各施設が設置されている地域住民に対し、活動への理解を広め、参加を呼びかける努力は2000年度にプロジェクトを開始して以来、一貫して行ってきたが、2007年度はさらに一歩踏み込み、経済的にも支援してくれるような住民組織の結成を試みた。夏の洪水時や冬の寒い時期に必要な衣服を提供してくれるなど、物品寄付による協力はこれまでよりもさらに規模が大きくなったものの、恒常的な支援を期待できるような住民組織については、実際に働きかけを行うスタッフ間のイメージにまとまりが得られなかったこともあり、結成にまでは至らなかった。なお、サイクロンへの対応などもあり、本格的な活動評価は実施できなかったものの、現行3カ年計画の最終年にあたる2008年度に向けて、プロジェクトの方向性を議論する機会をもつことができた。

### (2) 家事使用人<sup>※</sup>として働く少女支援

パートナー団体：Phulki

2006年度にダッカ市内で開設した2カ所のヘルプセンターの運営を継続し、年間合計で147人の女の子がセンターを訪れ、毎日平均57人の利用があった。高級住宅街の中にある巨大なスラムの一角（コライルセンター）と、中流世帯が多く住む地域内にある公務員住宅の中（パイクパラセンター）の2カ所でこれまでに重ねてきた経験を評価するため、子どもたちや雇い主、地域住民などを対象にした聞き取り調査を2007年12月に行った。センターに来ている子どもの入れ替わりが激しかったことについて認識を新たにしながら、センターに通った女の子たちが総じて雇い主から高い評価を得られるようになり、暴力が減少したという声が聞かれたり、保健衛生や収入状況に改善が見られたりといった肯定的な結果が多く得られた。

パートナー団体紹介  
(バングラデシュ・都市部)

Aparajeyo-Bangladesh  
(オボロジェヨ・バングラデシュ)

首都ダッカ市内から、現在は全国の地方中核都市へと活動範囲を拡大している子どもの権利擁護をテーマに活動するNGO。1996年設立。2000年度からのパートナー。

Phulki (フルキ)

職を求めて農村部からダッカへ移住してくる女性への支援を目的として1991年に設立されたNGO。代表をはじめ、職員のほとんどが女性。2006年度からのパートナー。



住民組織からの衣服を受け取るストリートチルドレン



パイクパラセンターとして使っている自治会室の建物



パイクパラセンターのクラス

## 2008 年度活動計画

農村部、都市部ともに従来からの取り組みは継続するものの、中期方針で示された方向性をより明確にしていくための模索を行う年となる。また、農村部においてはシャプラニールから独立して間もない2つのパートナー（COLI、STEP）団体の組織基盤の強化にも取り組む。



少女グループとパートナー団体（STEP）スタッフのミーティング



センターで学ぶ働く子どもたち

### 1. 農村部での活動

パートナー団体：COLI、PAPRI、STEP

#### (1) 「取り残された人々」への取り組み

中期方針に示された「取り残された人々」への取り組みをさらに強化していく。そのため、各種グループの育成から識字学級、保健衛生、収入向上にいたるまで多岐にわたっているプログラム構成の見直しと整理を進める。寡婦<sup>※</sup>や最貧困層など、経済的に困難な状況にある人々については、引き続き貯金やマイクロクレジットの機会を提供するほか、エスニックマイノリティ<sup>※</sup>、障がい者など社会経済活動への参加を阻害されている人々に対しても、生活状況の改善を図るための支援活動を実施していく。

#### (2) 「取り残された人々」を取り巻く周辺の人々への働きかけ

「取り残された人々」を取り巻く周辺の人々や組織への働きかけの一環として、これまで少年少女グループの育成、村委員会、高齢者集会、ユニオン（行政村）との協働関係の構築などに努めてきた。2008年度はこのうち、少年少女グループの育成と高齢者への働きかけの強化に取り組む。前者については、彼・彼女たちが地域社会を変えていくための担い手になるよう、これまで以上に働きかけを強めていく。一方、村委員会とユニオンとの協働については、地域の政治状況を注視しつつ（2008年中に総選挙実施予定）、いったん活動における比重を下げ、2009年度以降どうするかを検討する。

#### (3) 働く子どもたちへの取り組み

2007年度に引き続き、計12センターの運営を通して200人以上の働く子どもたちへの支援を継続する。ノルシンディ県のセンターでは、2007年度の反省に基づき、支援対象とする子どもの数を限定することで質を上げることに取り組むほか、必要な子どもには宿泊もできるよう、体制を整えていく。

### 2. 都市部での活動

#### (1) ストリートチルドレン支援

パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh

本プロジェクトは2000年度から継続実施してきたもので、ストリートチルドレンの生活を改善し、自らの人生を切り開いていく力を多くの子どもたちが身につけるなど、大きな成果を挙げてきた。またこの間、他のNGOや政府、国際機関がストリートチルドレン問題への取り組みに急速に関心を寄

せるようになり、実際に巨額の資金を投じるようになってきた。そこでシャプラニールでは2008年度をもって従来のストリートチルドレン支援プロジェクトは終了とし、ストリートチルドレンに対する新しい視点での活動、すなわち、ストリートチルドレンを生み出さないようにすることを目的としたプロジェクトの構築に取り組む。シャプラニールが農村部で長年にわたって築き上げてきた活動経験と、Aparajeyoの専門性を活かす形で2009年度からの実施に向けたプロジェクトの立案を行う。これに伴い、現行のストリートスクールとドロップイン・センターの運営形態をどうして行くかについてAparajeyoと協議しつつ、2008年度中に決定する。

(2) 家事使用人として働く少女支援

パートナー団体：Phulki

2007年度に実施した評価結果を受け、新たに1カ所のヘルプセンター増設を行い、計3カ所での運営を実施する。家事使用人として働く少女たちの問題をバングラデシュ社会に提起していくための準備として、3カ所のヘルプセンター運営を通して得られた経験をまとめ、各種メディアを通して周知を図っていく。

ストリートチルドレン  
支援活動結果（2008年3月末現在）

	計
ストリートスクール利用者総数（人）	474
1日平均利用者数（午前）	30
1日平均利用者数（午後）	25
1日平均授業参加者数（午前）	24
1日平均授業参加者数（午後）	20
ドロップインセンター利用者総数（人）	552
1日平均利用者	96
1日平均授業参加者	43
カウンセリングセッション（回数）	314
地域住民へのソーシャルワーク（人）	1,191

グループ（シヨミティ）育成結果（2008年3月末現在）

パートナー団体	2005年度		2006年度		2007年度	
	グループ数	メンバー数	グループ数	メンバー数	グループ数	メンバー数
COLI	337	4,906	312	4,541	314	4,450
PAPRI（農村部*）	435	8,852	567	11,891	595	11,878
STEP	157	3,040	176	3,385	185	3,897
合計	929	16,798	1,055	19,817	1,094	20,225

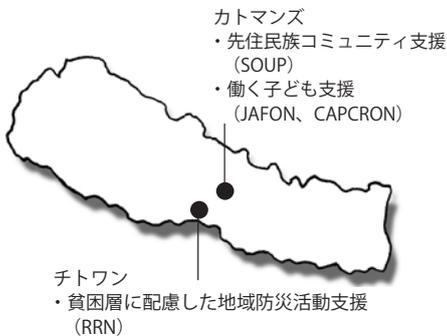
\*部分は各団体の独自事業

農村部における主なグループ活動（2008年3月末現在）

活動名	COLI		PAPRI		STEP		計		
	グループ数	人数	グループ数	人数	グループ数	人数	グループ数	人数	
少年少女グループ	34	476	55	1,085	23	531	112	2,092	
子どもグループ	28	528	—	—	8	253	36	781	
職業別グループ	115	188	—	—	—	—	115	188	
最貧困層グループ	24	296	63	1,134	60	275	147	1,705	
寡婦グループ	13	128	—	—	—	—	13	128	
児童補習学級	34	639	5	150	6	286	45	1,075	
働く子ども支援センター	11	170	1	30	—	—	12	200	
障がい者	—	60	—	841	—	—	0	901	
							裨益者総計	480	7,070

# ネパール

## 2007 年度活動報告



### パートナー団体紹介 (ネパール・農村部)

**RRN**  
(アール・アール・エヌ / Rural Reconstruction Nepal)

女性、子ども、ダリット<sup>※</sup>やエスニックグループなど、厳しい状況にある人々のエンパワメントを目指した活動を展開するネパール最大の NGO の一つ。1989 年設立。2007 年度からのパートナー。



住民と話すパートナー団体 (RRN) スタッフ



ガムチャ女性グループメンバーと話す外部コンサルタント (中央)

2006 年度まで 8 年間にわたって取り組んできたオカドゥンガ郡での農村開発プロジェクトに代わる、本格的な活動がチトワン郡で開始される一方、都市部では貧困女性の生活向上支援が予定通り終了。またストリートチルドレン支援活動を計画よりも早期に終了せざるを得なくなるなど、ネパールでの活動全体の枠組みが大きく変化する年となった。

### 1. 農村部での活動

#### (1) 貧困層に配慮した地域防災活動支援

パートナー団体：RRN

ネパール政府からのプロジェクト実施認可の取得が 11 月までずれ込んだため、本格的な取り組みは年度後半となったが、活動対象地域であるチトワン郡内の 2 つの VDC (行政村) に計 13 グループ、390 人が参加する防災グループを結成することができた。このグループメンバーは地域内の全世帯から一人ずつが参加する形で結成されているが、中でも自然災害時にもっとも大きな被害を受ける貧困層世帯の住民が、今後収入向上活動に取り組むために必要な支援を開始しているほか、防災に関する基礎的な知識を学ぶための研修を行った。なお、本プロジェクトは JICA (独立行政法人国際協力機構) の草の根技術協力事業 (パートナー型) として実施されている。

#### (2) 貧困女性の生活向上支援

女性たち自身がエンパワー<sup>※</sup>されることを目指した活動を 2007 年度中に立案、実施する予定であったが、中期方針に基づく 5 年計画策定作業の中でスケジュールを改めて見直し、2008 年度中に立案し、2009 年度からの実施を目指すこととした。ただし、価値観を共有できるパートナー団体は選定できたことから、今後は活動地域や内容の検討など、具体的な作業を進めていくことになる。

### 2. 都市部での活動

#### (1) 住民組織の自立支援

パートナー団体：SOUP

8 つの女性グループ、計 277 人の女性に対する各種研修の機会を提供した。2007 年度をもってプロジェクトが終了となることから、各女性グループの現状を認識することを目的に、外部コンサルタントを活用した実態調査を行った。その結果、グループ活動に参加した女性たちの生活が確実に改善されたことが分かった。一方グループ活動が、事業終了後も継続していけるかどうかについては、協同組合登録が行政側の都合で停止されている状況が長く続いており、行政からのサポートが受けられない状況が続いていたこともあり、実態調査の時点では疑問が残った。しかしながら、年度末の 3 月に

入って組合登録の受付が再開されたため、結果的に新しい活動値地であるガムチャ地域の2グループを除き、6つの女性グループが地域ごとの3グループに再編成した上で、所期の目的であった組合登録を達成することができた。今後も SOUP 独自の活動として女性たちへの関わりは続けるとの意思表示があったこと、また地域によっては周辺住民の支援が得られる状態にあることから、当初の予定通りプロジェクトを終了することとした。

## (2) 働く子どもたちへの支援

パートナー団体：CAPCRON

2004年12月のプロジェクト開始からこれまでの間、活動を実施する中で得られた経験や情報をもとに、働く子どもの状況に応じて具体的な活動内容を変化させながら取り組んできた。2007年度は移動教室、移動クリニック、技術研修、市民登録証取得に向けた法的支援、家事使用人として働く子どもたちの教室運営などを通して、計209人の子どもたちへの支援を行うことができた。またCAPCRONスタッフによる自己評価を中心とした振り返りを実施した結果、子どもたちの雇用主への意図的な働きかけができてこなかった点を反省として共有することができた。

## (3) ストリートチルドレン支援

パートナー団体：JAFON

ストリートチルドレンが集まり、各自のニーズに応じて利用できる施設として設置し、運営を行ってきた「みんなの家」で、2006年度末に起きたテレビ盗難事件とJAFONがとった対応をきっかけに、当初2007年度末（2008年3月末）まで実施する予定だったプロジェクトは、2007年7月末をもって早期終了することになった。一連の経緯およびシャプラニールとして反省すべき点をまとめた総括を別途作成し、今後の教訓とした。

## パートナー団体紹介 (ネパール・都市部)

**CAPCRON**  
(キャブクロン / Centre to Assist & Protect Child Rights of Nepal)

子どもの人権分野を専門とする弁護士有志が集まり、1991年に設立したNGO。ストリートチルドレンなどを対象にした法的支援を中心に活動。2004年度からのパートナー。

**JAFON**  
(ジャフオン / Jagaran Forum Nepal)

元ストリートチルドレンの若者9名が設立したNGO。ごみ拾いや乗り合いバスの車掌などをしながら生活するストリートチルドレンを支援している。2004年度からのパートナー。2007年7月末をもって事業終了。

**SOUP**  
(スープ / Society for Urban Poor)

ネワール族(\*)の伝統的コミュニティの再生と人々の生活改善を目指して活動する小規模なNGO。ボランティアが集まり、1992年に設立。1999年度からのパートナー。2007年度末をもって事業終了。



働く子どもたちへの奨学金授与式

# 2008年度活動計画

農村部では2007年度新たに始まった地域防災活動を本格化させるのと同時に、女性のエンパワメント\*をテーマにした新規プロジェクトの立案を行う。また都市部では働く子どもたちへの取り組みに特化し、これまでの反省を活かして質の高い活動となるよう注力する。

## 1. 農村部での活動

### (1) 貧困層に配慮した地域防災活動

パートナー団体：RRN

2007年度に結成した13の防災グループに対し、国内外の専門家を活用してより高度な研修の機会を提供し、各地域におけるハザードマップ（防災地図）の作成を進める。また災害時に必要となる最低限の物資の備蓄や小規模な護岸工事の実施なども含め、グループメンバー以外にも巻き込みながら災害に強

い地域づくりに取り組む。貧困層の収入向上についても、まずはグループの状況に応じた計画を作成し、必要な研修や最低限の初期投資資金の提供などを行う。

(2) 女性のエンパワメントへの取り組みに向けて

パートナー団体：WATCH

2008年度は、まずパートナーとなる WATCH と共同で活動地や内容の検討を行い、それに従ってプロジェクトの骨子をまとめることから始める。その後、2009年度からの実施に向けた必要な初期調査等を適宜実施していく。

## 2. 都市部での活動

(1) 働く子どもたちへの取り組み

パートナー団体：CAPCRON

2007年度に得られた反省点をもとに、雇用主や地域住民への働きかけに意識的に取り組んでいく。これまで実施してきた家事使用人として働く子どものための教室を、雇用主を含む地域住民が引き続き運営を継続できるようにするなど、地域社会との協働を進めることで、各種の活動がこちらからの単なるサービス提供で終わることのないようにしていく。

# インド／緊急救援活動

## インド

### 2007 年度活動報告

2006 年度から始まったインドの活動は、当面現地事務所をおかず、ダッカ事務所と東京事務所が分担してプロジェクト管理をするという体制で実施してきた。新たに中期方針が策定されたことを受け、海外活動全体の組み立てを検討する中で、2007 年度はインドでの方向性を明確にすることができずに終わったものの、集中的に検討するための委員会を年度末に設置することができた。

#### 1. 子どもたちによる環境学習

パートナー団体：DRCS

これまでの活動によって得られた各地域における環境に関する課題の解決を目的に、比較的年齢の高い子どもたちが中心となり、グループとして取り組むプロジェクトの形で提案した。その内容をパートナーである DRCS が精査した結果、10 のプロジェクトとしてまとめられ、「野菜畑における殺虫剤の効果についての研究」や「多目的な苗木の育成」などのテーマに、各グループで積極的に取り組むことができた。

#### 2. 家政婦<sup>※</sup>として働く女性への支援

パートナー団体：PARICHITI

2007 年 4 月から正式に開設されたドロップイン・センター兼事務所を拠点に、家政婦として働く女性への支援を様々な形で実施した。ほとんどの家政婦が一日のうちに複数の家庭で働いており、多い場合には 5 軒もはしごをする中で、ドロップイン・センターを訪れ、スタッフに様々な相談をする機会を得られるようになるなど、一定の成果を挙げた。2007 年度は合計 74 人の女性が施設に訪れたほか、202 人の家政婦へのインタビューをまとめた記録集を作成することもできた。しかし、継続的に施設を利用する家政婦の数が非常に限定されていること、PARICHITI の組織としての運営状況に未熟な面があることなど、改善すべき課題を残した。

### 2008 年度活動計画

2008 年は、2007 年度まで実施してきた活動を継続すると同時に、インドでの活動の方向性を検討するために結成された委員会による協議を進め、2009 年度以降の方針を決定していく。



#### パートナー団体紹介 (インド)

**DRCS**  
(通称 サービスセンター／Development Research Communication & Service Centre)  
社会経済的な問題を収集・分析し、それを必要とする NGO や個人へ発信することを目的として活動する NGO。1982 年設立。2006 年度からのパートナー。

**PARICHITI (ポリチティ)**  
コルカタで活動する様々な NGO の活動家やジャーナリストらが有志で立ち上げた NGO。コルカタで唯一、家政婦として働く女性への支援を行う。1999 年設立。2006 年度からのパートナー。



自分たちのプロジェクトについて話し合うエコグループのメンバー



ドロップイン・センターの前に立つ家政婦として働く女性とスタッフ

## 1. 子どもたちによる環境学習

パートナー団体：DRCSC

2007年度、自分たちで立案した環境問題に関するプロジェクトに取り組むグループへの支援を継続する。2009年度以降、DRCSCからの支援がなくてもグループ活動が継続できるよう、働きかけていく。

## 2. 家政婦として働く女性への取り組み

パートナー団体：PARICHITI

PARICHITIの組織運営体制に不安があること、またインドでの活動の方向性が計画策定時点で未定であったことから、2007年開設したドロップイン・センター兼事務所の運営は継続するものの、新しい展開には当面取り組まず、現状を維持し、運営体制の強化に努める。今後策定されるインド全体の活動方針に従い、年度内に改めて今後の方針を決定する予定。



配給物資を持ち帰るチョールに住む最貧困層グループ

パートナー団体紹介  
(緊急救援・バングラデシュ サイクロン)  
活動詳細は、P10-11をご覧ください。

JJS  
(ジェイ・ジェイ・エス/Jagrata Juba Shangha)  
サイクロン被災地域で、女性や子ども、社会的に阻害されてきた人々への支援などに取り組んでいる NGO。1988年設立。以前からスタッフ研修などで交流があった。

Sangkalpa Trust  
(シヨンコルボ・トラスト)  
主に沿岸地域で女性や子どもなどへの支援を行っている NGO。サイクロンを契機にパートナーとなる。

SANGRAM  
(シヨングラム)  
沿岸地域、チョールなどに住む、災害の影響を受けやすく貧しい人々の生活向上に取り組む NGO。1985年設立。サイクロンを契機にパートナーとなる。

KSSS  
(ケー・エス・エス・エス/Kabi Sukanta Seba Sangha)  
ゴバルゴンジ県コバリタラ郡で、寡婦や子どもの権利を擁護するための法的支援などを実施している NGO。過去、STEPへの研修講師を依頼したことがある。1987年設立。

CDP  
(シー・ディー・ピー/Community Development Project)  
ゴバルゴンジ県コタリパラ郡で、地域の貧しい人々のために教育、保健、収入向上支援などを行う小規模な NGO。1997年設立。サイクロンを契機にパートナーとなる。

# 緊急救援活動

## 2007年度活動報告

2007年度は、バングラデシュにおいて、8月に大洪水、および11月にサイクロンが起り、それぞれについて緊急救援および復興活動を行った。このうち、サイクロンについては、特集として別途10-11ページに記載している。

### 1. バングラデシュ・大洪水

2007年8月に、2004年以来の洪水被害が発生したことを受け、農村部の既存活動地の状況を調査。その結果、マニクゴンジ県とノルシンディ県では2004年を上回る水位を記録するなど、救援活動が必要な状況にあることが分かった。しかし、さらに精査した結果、前者の地域ではこれまでの経験によって自ら対応策を講じている住民が多く、また他の NGO や国際機関が救援活動の実施を計画していることなどから、ノルシンディ県内で救援活動から取り残されていた地域であるチョール(中洲)においてのみ、最貧困層の171世帯に限定した食糧配布を実施した。

# 2008 年度活動計画

## 1. 緊急救援活動に関する体制の確立

バングラデシュ、ネパール、インドを含め、南アジアで毎年のように大規模な自然災害が起き、それへの対応を余儀なくされている現状から、組織としてより効果的、効率的な対応がとれるよう次の2点の整備を行う。

### (1) 緊急事態への即応体制

各海外事務所および東京事務所において、災害の種類と規模に応じた初動体制を整える。具体的には過去の経験を整理し、すでに明文化されている「緊急救援活動原則」を元に、情報収集から救援活動を実施する際のパートナー候補の一覧にいたるまで、関係者が常時参照しうるマニュアルを整備し、役割分担を明確にする。

### (2) 自身の被災を想定した対策

前項と同様、各海外事務所および東京事務所において、災害の種類と規模に応じた行動マニュアルを整備し、最低限必要な物資の備蓄を行う。

# クラフトリンク

## 2007 年度活動報告

生産者の生活向上という目的を達成するため販売強化に重点を置き、目標を上回る 6,924 万円の売上げを達成した。また、フェアトレードに対する関心の高まりを受け、フェアトレードに関する連続講座の開催、各地での講演、フェアトレード団体間のネットワーキングにも取り組み、存在感を高める努力をした。同時に、活動の足場を固めるためにクラフトリンク活動指針の見直しやフェアトレード全体の状況把握等を行った。

### 1. 販売促進



トラカムバックのパートナー団体 WSDP の生産者

クラフトを扱っている店舗に対してこまめな電話がけや特典付の特別セールを実施した。新規の取引店舗も増え、店舗への卸が件数金額ともに伸びた。地方自治体や労働組合等からジュート製バッグの大口注文が入り、売上の増加に貢献した。サイトやカタログでもオリジナルプリント※の PR を行い、店舗や企業などから多くの問い合わせが来ている。初めての試みとして、イベントシーズンを前に、8 月と 10 月に委託販売制度の説明会を実施した。2007 年秋冬カタログからページを増やし、クラフトリンクの活動意義、生産者やパートナー団体に関する情報をよりわかりやすく伝える工夫をした。レジバッグやトラカムバック※を中心に、楽天市場※の売上が急激な伸びを示し、今後の可能性を感じさせた。



札幌で実施したフェアトレード・フェアは、北星学園大学の学生が中心になって企画・運営

### 2. 新たな取り組み

ネパールのコーヒー生産団体および生産農家を訪問し、詳細な聞き取りを行うと共に、輸入手続きや貯蔵、焙煎、包装などの工程について調査を行った。市民活動団体である「2025 プロジェクト」との協働により実施したトラカムバック・キャンペーンは予想を超える反響を得、追加生産も行い、新たな顧客層の開拓にも寄与した。現地パートナー団体のスタッフ招へいはしなかったが、全国 4 カ所（札幌・館林・茨木・久留米）でフェアトレード・フェアを実施。売上は目標に届かなかったものの、それぞれの地方における存在感を高めることはできた。

### 3. 商品開発

デザイナーを継続的に雇用することにより、より魅力的な商品開発に努めた。対象となる顧客層や商品構成の見直しを進め、機能的な衣料、主力であるジュート※やノクシカタ※等の新商品開発に力を入れた。

#### 4. フェアトレードの深化

フェアトレード連続講座の開催、関連ワークショップや会議等への積極的な参加を通してフェアトレードに関する知識を深めた。講演依頼やマスコミの取材を積極的に受けるなど、存在感を高めるよう注力した。クラフトリンクの歴史や活動指針の内容について振り返りを行うと共に、フェアトレードを取り巻く環境の把握に努めた。これにより、生産者の生活向上を第一の目的とし、現地にある素材や伝統・文化を基本に作られる手工芸品を取り扱うというシャプラニールの強みが明確になり、積極的な情報発信につながった。なお、欧米などフェアトレード先進地域への視察研修は予算の都合により2007年度中の実施を見合わせた。

#### 5. 手工芸品団体との関係

現地における出荷前検品の実施、品質に関する情報の現地へのフィードバックを通して品質の向上に努めた。現地への出張時に、各パートナー団体が行っている生活向上への取組に関して詳しく聞き取りを行い、その内容をカタログ上でまたは講演の際に活動の意義のひとつとして伝えている。

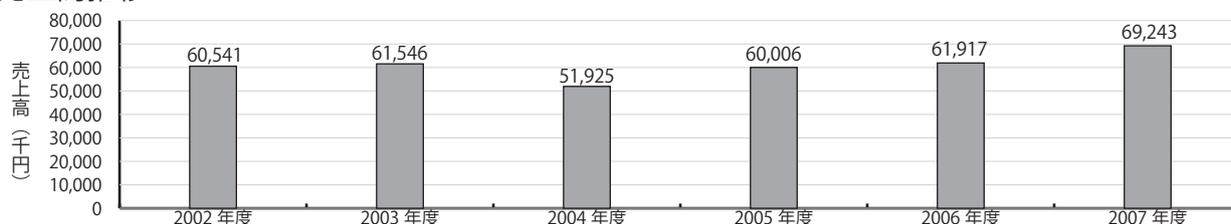
#### 6. その他

情報収集や生産者情報の整理を主に担当すると共に、その他の日常業務にも携わりながらクラフトリンクの活動について学ぶためのインターンを1名採用した。これまで個別に輸出業務を行っていたバングラデシュの4団体の商品をひとつの業者にまとめるよう調整したり、一部船便を使うなど、コストの削減に努めた。2007年8月にはフェアトレードをテーマにしたスタディツアーを実施、ネパールのパートナー団体を訪問し、生産者へのインタビュー等を通してフェアトレードの意義を考える機会となった。



スタディツアーで訪問したパートナー団体サナ・ハスタカラのニット製品生産者

#### 売上高推移



#### 年間延べ協力者数推移 (納品件数ベース)



## 2008 年度活動計画



自分が作った新作のジュートバッグを手にする生産者

フェアトレードへの関心が高まるにつれ、生産者に対する効果や環境への配慮、品質などについて厳しく問われるようになってきた。2008年度はクラフトリンク業務全般の信頼度、正確さを高めることに注力する年とし、それ以後の飛躍へ向けた下地を作る。販売面では、2007年度好調だった店舗への卸、楽天市場に力を入れると共に、企業や団体、生協等へ積極的な営業を行い、大口注文を獲得する。また、現在の雇用形態を見直しつつ人員体制の強化に着手する。

### 1. 販売促進

店舗への卸については情報提供や特別セール品の提供など既存店舗へのサービスを強化すると共に、これまであまり取引のない異業種の取引先を開拓する。楽天市場では積極的な情報提供や広告企画の有効活用を通して売上増を目指す。営業のマニパワーを確保し、企業・団体や生協への営業活動を行う。ジュートバッグを中心とした特注の獲得を目指す。2007年度好評だったトラカムバック・キャンペーンについては新色を加えて継続する。カタログの新たな配布先を開拓するなど、新規顧客の獲得に努める一方、顧客満足度を高めるための施策を検討する。また、2007年度に調査を行ったネパールのコーヒーの販売を開始することで、繰り返しの購入者を見込む。

### 2. 商品開発

販売情報の的確な分析、あるいは市場に関する情報や環境問題等、周辺情報の収集を強化し、より売れる商品の開発に力を入れる。2011年度以降の商品展開を睨み、新たな商品構成を検討する。品質基準の策定、商品試験の実施、クレーム情報などの整理、分析および現地へのフィードバックといった取組を通して、品質の向上を目指す。

### 3. 広報

クラフトリンクが打ち出すメッセージの内容や伝え方の整理を進め、情報発信力を高める。プレスリリースの回数を増やす、ウェブサイトのリニューアルを行う等により露出度を高める。2009年度に予定しているビデオ制作へ向けて準備を開始する。

### 4. フェアトレードの深化

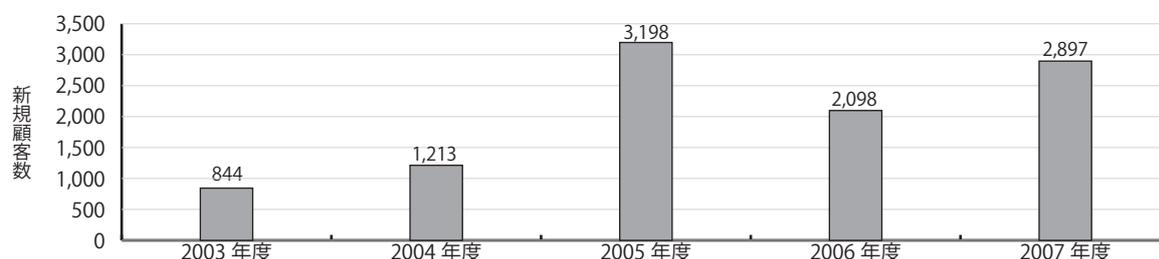
活動の成果を把握するため、定期的なモニタリングを開始する。また、海外協力団体としての視点を活かした新たな取組が可能かどうか検討する。

2009 年度に実施予定のフェアトレード調査へ向けて準備を進める。国内では、講演等の依頼を積極的に受ける、あるいは地域のフェアトレードイベントへの参加等を通して存在感を高めていく。

## 5. 運営体制の強化

デザイナーや営業を担当する人員を確保し、品質の向上および売上の増加を目指す。販売管理システムや販売形態の見直し、コスト削減策の検討を行い、業務の効率化を図る。研修への参加、関連書籍の輪読などを通してスタッフの能力強化に努める。また、国内外でのネットワークにも積極的に参加し、活動の基盤を強化する。

### 新規顧客数推移



### 手工芸品団体一覧（2008年3月末）

国	団体名	正式名称	主な取扱商品
ネパール	ACP BCP ダッカ・ウィーヴズ マハグティ サナ・ハスタカラ WSDP	Association for Craft Producers Bhaktapur Craft Paper Ltd. Dhaka Weaves MAHAGUTHI SANA HASTAKALA Women's Skill Development Project	タルー・アップリケ、ニット製品 手すき紙カード ダッカ織 手織布衣料、ニット製品 ミティラ・アート、アロー製品 手織布バッグ
バングラデシュ	アーロン ジュート・ワークス カルポリ クムディニ MCC サリー・アン シレイコン プロボルトナ YWCA	BRAC/Aalong CORR The Jute Works Karu Palli Kumudini Welfare Trust of Bengal The Mennonite Central Committee Sally Ann Shilleikon UBINIG/Prabartana YWCA Bangladesh	ノクシカタ タペストリー/小物 ジュートバッグ/サンダル、素焼 小銭入れ、ブックカバー ろうけつ染、刺しゅう製品 レジバッグ、手すき紙 クリスマス・オーナメント 手織布バッグ、プレイスマット 手織布衣料、スカーフ 指人形、ワインバッグ

# 国内活動

## 2007 年度活動報告

### 1. 地域活動と開発教育

#### (1) 地域展開

中期活動指針策定に当たり、国内の活動を改めて見直すとともに、国内活動行動指針※策定のための委員会を事務局と理事で立ち上げ、シャプラニールの国内での活動指針を定めた。また、地域で活動している連絡会からの要望を受け、地域での活動を活性化するための活動補助金の制度を設けた。

夏から冬にかけてフェアトレード・フェアを全国4カ所で開催し、ボランティアとして地域連絡会のメンバー、学生、企業、労働組合の方々が参加した。

年明けには、バングラデシュから帰国した小嶋前駐在員が全国34カ所をまわり講演する「全国キャラバン2007」を実施し、合計800人を超える方々の参加を得た。

#### (2) 開発教育

これまで、貸出しや販売を行ってきた教材を見直し、一部改訂した。また、武蔵野市国際交流協会が主催する「2007年度夏期教員ワークショップ」に参加し、授業案の作成や教員との交流を図り、フェアトレードをテーマとする教材の授業案を作成した。

年間を通じ教材は合計18回を貸出し、12セットを販売した。また総合学習や修学旅行など中高生の訪問授業を合計11校受け入れた。

#### (3) スタディツアー

夏にネパール、春にバングラデシュの2回のツアーを実施し、合計で23名が参加した。

### 2. 活動支援者を広げる

#### (1) ステナイ生活の輪の拡大

・古本のリユースを通じて働く子どもたちの夢を応援する「モノをステナイ、夢をステナイ～子どもの夢応援キャンペーン～」を10～12月に開催し、企業・団体を中心に参加を呼びかけ、企業8社（新規6社）、および全国友の会（全国14友の会）からの協力を得た。

・2007年度年賀はがき回収キャンペーン（12～3月）を通じて、新規に1,418名からの支援を得た。

・環境省主催のエコライフフェア※へ新規出展し、環境やエコに関心のある層への呼びかけを強化した。

・インターン1名を採用し、上記「子どもの夢応援キャンペーン」やステナイ生活協力者への通信作成等の業務を担当した。

#### (2) 支援者が関心を高められるように

・国際協力入門講座を15回開催し155名が参加。ステナイ生活やマンスリーサポーターなど、国内でできる海外協力を紹介した。

・藤岡ダッカ事務所長の帰国時（2007年8月）に都市部で使用人として働く少女への活動の報告会を開催した。



全国キャラバン2007。東京での最終回は田尻理事とのトークセッションを企画。

モノをステナイ、夢をステナイ  
Smile Next

### 子どもの夢応援キャンペーン

あなたの家に眠る、古本・CD・DVDの収集にご協力ください

対象となるモノ	対象にならないモノ
1. 本	週刊雑誌、週刊マンガ、百科事典
2. 音楽 CD (7インチ、マキシシングル)	レンタル落ち、サンプル品、新商品
3. DVD・ビデオ	レンタル落ち、サンプル品、新商品
4. ゲームソフト	PCゲーム

「子どもの夢応援キャンペーン」とは、  
日本や中国など身の回りにあるモノを集めて、南アジアの子どもの夢を応援するために役立つ活動です。  
集まったモノは、NGO シャプラニールに寄付して廃棄され、ストリート子ども達への支援などに海外協力を活用されます。  
<http://www.shaplaneer.org/>

募集期間 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )

お問い合わせ

「モノをステナイ、夢をステナイ～子どもの夢応援キャンペーン～」呼びかけポスター

### 3. 広く活動を伝える

#### (1) メッセージの発信

- ・共生に関するこれまでの取り組みを整理し、共生をわかりやすく説明するキャッチコピーと説明文を考案したが、効果的にメッセージを発信するまでにはいたらなかった。
- ・ホームレス支援を目的とした雑誌「ビッグイシュー」※へ広告を出稿し、これまでアプローチできなかった人へ参加を呼びかけた。
- ・「クラフトリンク」や「ステナイ生活」を中心に 2007 年度は 114 件(新聞 65 件、雑誌 37 件、テレビ 8 件、ラジオ 4 件)のメディアで紹介された。

#### (2) 刊行物

- ・会報「南の風」を隔月年 6 回、オピニオン誌「もうひとつの南の風」は年 2 回発行し、活動を会員へ伝えた。
- ・メールマガジンを定期的に発行し、新規に 416 名の読者を得て、合計 3,484 名となった。

#### (3) ウェブサイト

- ・ブログによる現地の生の情報提供、タイムリーな情報発信を行った。
- ・携帯電話用のモバイルサイトの充実を図った。
- ・年間のウェブサイト閲覧数(楽天含む)は、約 310 万回となり、2006 年度対比 19%増となった。

### 4. 企業・団体との協働

- ・ウェブサイトの「企業と団体との協働」のページを改定し、シャプラニールと協働することの利点を明らかにした。
- ・社員参加型の社会貢献活動として「ステナイ生活」の提案活動を展開した。
- ・クラフトリンクの出張販売など、企業・団体が主催するイベントへ積極的に参加した。
- ・ステナイ生活では 301、クラフトリンクでは 13 の企業・団体から新規に協力を得た。
- ・多くの企業・団体からサイクロン「シドル」被災者救援活動への寄付があり、救援活動の報告を行った。

### 5. その他

#### (1) 東京事務所を中心とした自主活動

##### ・ユース・チーム

年度冒頭にユース対象の座談会を行った。宿泊型企画として、8月に「中学生・高校生フォーラム」、2月に大学生を対象とした「The ☆ Forum」をいずれも 2泊3日で 30～40名規模で行い、好評を得た。また「いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク」が実施する「インドネシア-日本インターネット交流企画」に協力し、2月には現地 NGO (LP2G) の活動地域をメンバーが訪問し交流した。さらに、「アースデイ千葉」などにおいてクラフトの販売を行った。



「ビッグイシュー」に出稿した広告。(上) マンスリーサポーター (下) ステナイ生活

- ・ネパール・サムハ

JAFONの責任者が執筆した「ストリートチルドレンの証言」の翻訳を終えて、出版に向けた検討を行った。

- ・シャプラニール劇団

ネパールのシナリオ作成を目標に、月一回の勉強会、ミーティングを開催した。

## 2008 年度活動計画

### 1. 地域展開

個人やグループが主体的に活動を行うことを支援できる体制作りを行う。またここ数年、活動実績のない連絡会を整理すると共に、それ以外の連絡会を含めたボランティア活動の形態について議論を深める。

2007年度から始まった、地域からのイベント提案に対して活動補助金を出す制度を軌道に乗せると共に、年度後半に全国キャラバンを実施し地域活動との連携を図る。また、秋口には地域活動者（連絡会・クラフト協力店・大学・労組など）が一堂に会する機会を設け、ボランティアのネットワークを広げる。

### 2. 開発教育

現行の開発教育教材を一部改訂した上で貸出や販売を継続する。大学生を意識した層（学生会員やフェアトレードに関心ある層）との対話を深め、次年度以降の計画を共同で策定する。特にユース・チームとの協働で「中学生・高校生フォーラム」「The ☆ Forum」などを実施するほか、勉強会などの講座も行う。

スタディツアー（企画ツアーのみ）は年3回程度企画する。またそのうち春の実施分は大学生や高校生を対象として企画する。

### 3. 活動支援者を広げる

#### (1) ステナイ生活の輪の拡大

- ・より多くの人にステナイ生活に取り組んでもらうため、キャッチコピーやロゴの作成、ウェブサイトでの既存協力事例の紹介、紹介キャンペーンを行う。

- ・クラフトリンクに既に協力いただいている企業、団体へステナイ生活を紹介する営業を行う。

#### (2) 市民参加のひとつの方法として、支援者を拡大する

- ・ウェブサイト等での有料広告※などを利用し、活動やマンスリーサポーターについて広報し、新規支援者をひろげる。

- ・東京近郊以外の地域の支援者の方々にも活動をきちんと説明する機会として、全国数カ所で事務局長等による「支援者と会う旅」を実施する。



社内イベントで取り組める「ステナイ生活」

### 4. 企業・団体との協働

- ・CSR（企業の社会的責任）※への関心が高まっているなか、企業・団体の「本業をいかしたCSR活動」※、「社員参加型のCSR」※を提案していく。

・「ステナイ生活」協力企業・団体へ「クラフトリンク」を、「クラフトリンク」協力企業・団体へ「ステナイ生活」を呼びかけ、「社員参加型の CSR」に貢献する。

・2007 年度に結成された「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」※に引き続き運営 NGO として参加し、2008 年度は G8 サミットに対しての市民のアクションを促す「100 万人のたんざくアクションキャンペーン」に協力する。

## 5. 広く活動を伝える

### (1) メッセージの発信

・シャプラニールが考える「共生」を伝えるメッセージ（ブランドステートメント、タグライン）を広く社会に発信する。

・メッセージをより効果的、効率的に伝えるために広報物（冊子、リーフレット、ウェブサイトなど）を改善する。

### (2) コミュニケーション

・共感を得られる広報物や団体のイメージを作っていくために、会員、サポーター、ボランティアの声を聞くことでシャプラニールへの期待や関心事項を知る。

・マスメディア（新聞社、テレビ、雑誌など）と積極的にコミュニケーションを図り、露出の増加に努め、広くシャプラニールを知ってもらう。

## 6. 東京事務所を中心とした自主活動

### ・ユース・チーム

シャプラニールのリソースをより有効に活用していくと共に、多くの人に開かれたボランティアチームであることを志向して活動する。2008 年度は、事務局と協働で「中学生・高校生フォーラム」「The ☆ Forum」を企画するほか、事務局との勉強会や他団体との交流や勉強会などを通じ、参加者が継続的に活動に関与できるような参加型イベントを立案し実行する。

### ・ネパール・サムハ

サムハ独自のホームページのドメインを取得し 5 月からの開設を目指す。またシャプラニールの支援が終了した JAFON との連携を密にしてストリートチルドレンの教育・技術訓練に協力していく。ネパールのストリートチルドレンに関する本を出版する。

### ・シャプラニール劇団

ネパールの女性の識字をテーマにしたシナリオの完成を目標に、ミーティングやネパール料理実習等行っていく。

# 組織の充実

## 2007 年度活動報告



35周年記念フォーラムで講演する中田代表

### 1. 支援者拡大に向けて

2007年度はマンスリーサポーターの拡大キャンペーンを10月と2月に実施し、128人の新しいサポーターを得た。これで年度末のサポーターは842人となった。

### 2.35周年記念企画

35周年を記念し、9月に「シャプラニールの今を伝える」をテーマとして、記念フォーラムを開催した。130人が参加し、現在の活動の課題や今後の可能性について議論した。また、シャプラニールの今を伝えるポスター2種類を制作した。



35周年記念フォーラムのパネルディスカッションの様子

### 3. 認定 NPO 法人取得に向けて

計画に基づき、申請書類の準備を進めてきたが、税務当局と事前相談を重ねる中で種々の修正作業に手間取り、申請の時期が遅れることとなった。結果的に第4四半期に申請書を提出した。

### 4. 中期方針の着実な展開

2007年度より発効した5カ年の中期方針に従い、5年間の重点的な活動計画を策定した。

### 5. 市民社会組織としての貢献（知的貢献部門）

- ・ JICA「市民社会支援プログラム」への協力
- ・ 庭野平和財団の南アジアプログラムへの協力
- ・ NGO-労働組合同国際協働フォーラムへ委員を派遣した。
- ・ JICA 草の根技術協力事業として、バングラデシュのイシヨルゴンジ郡における協働事業が8月に終了したほか、新たにネパールのチトワン郡において、地域防災活動を1月より開始した。
- ・ JICA のバングラデシュにおける PRDP（行政と住民のエンパワーメントを通じた参加型農村開発プロジェクト）への国内支援委員と NGO-JICA 評価小委員会への委員を派遣した。
- ・ 外務省の日本 NGO 連携無償効果検証プログラムに参加、ミャンマーでの案件の検証を行った。
- ・ 「2008年G8サミット・NGOフォーラム」への参加を継続し、理事を副代表として派遣した。

- ・国際協力 NGO センター (JANIC) の運営に積極的に関わり、理事長を派遣した。
- ・中央共同募金会の企画・推進委員会に委員を派遣した。
- ・立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科に非常勤講師を派遣した。
- ・学校や中間支援組織などにおける講演・ワークショップの講師派遣を 54 回行った。

## 6. 商標登録ほか

「シャプラニール」と「ステナイ生活」の商標登録が完了した。また、情報セキュリティ規程、個人情報取扱規程、経理規程を整備した。

# 2008 年度活動計画

## 1. 労働環境の整備

職員の時間外労働制度化等を含めた給与体系を検討するほか、育児休暇、介護休暇を制度化する。

## 2. 危機管理

東京事務所において、災害などの危機に対する危機管理マニュアルを整備する。

## 3. 市民社会組織としての貢献 (知的貢献部門)

- ・ JICA 「市民社会支援プログラム」 への協力
- ・ 庭野平和財団の南アジアプログラムへの協力
- ・ NGO- 労働組合国際協働フォーラムへ委員を引き続き派遣する。
- ・ JICA 草の根技術協力事業として、ネパールのチトワン郡における協働事業を継続するほか、バングラデシュでの新規協働事業を検討する。
- ・ JICA のバングラデシュにおける PRDP (行政と住民のエンパワーメントを通じた参加型農村開発プロジェクト) への国内支援委員と NGO-JICA 評価小委員会への委員を引き続き派遣する。
- ・ ネパールにおける総選挙実施に伴う選挙監視団の団員を派遣する。
- ・ 国際協力 NGO センター (JANIC) に引き続き理事長を派遣する。
- ・ 「2008 年 G8 サミット・ NGO フォーラム」 への参加を継続する。
- ・ 中央共同募金会の企画・推進委員会に委員を派遣する。
- ・ 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科に引き続き非常勤講師を派遣する。



庭野平和財団「南アジアプログラム」にて、インドの NGO を訪問 (大橋理事)



JICA 「市民社会支援プログラム」 では、途上国からの参加者が日本の NPO を訪問・研修

# 付表

## ■ 2007 年度国内カレンダー

4月28日	評議員会
6月23日	会員総会
8月2～4日	中学生・高校生フォーラム (中高生対象の宿泊型勉強会)
8月～12月	フェアトレード・フェア
8月18～27日	スタディツアー (ネパール)
9月1日	35周年記念フォーラム・パーティ
9月29日	評議員会
1月～2月	全国キャラバン 2007 (小嶋前駐在員)
2月13～15日	The ☆ Forum (大学生対象の宿泊型勉強会)
2～3月	マンスリーサポーターキャンペーン
3月21～30日	スタディツアー (バングラデシュ)

## ■ 2008 年度国内カレンダー (予定)

4月26日	評議員会
6月28日	会員総会
6～7月	支援者と会う旅
8月	中学生・高校生フォーラム (中高生対象の宿泊型勉強会) 2回開催
8月15～24日	スタディツアー (バングラデシュ)
9月	地域ボランティア大集合 (仮称)
9月	評議員会
11～12月	全国キャラバン 2008
10～12月	マンスリーサポーターキャンペーン
12月	スタディツアー (ネパール)
2月	The ☆ Forum (大学生対象の宿泊型勉強会)
3月	スタディツアー (バングラデシュ 高校生・大学生対象)

## ■ 各地域連絡会の主な活動

### ○シャプラニール札幌連絡会

- ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演会 札幌市西区「くすみ書房・ソクラテスのカフェ」1月26日)

### ○シャプラニール山形連絡会

- ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演会 山形市霞城公民館 2月19日)

### ○シャプラニール鶴岡連絡会

- ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演会とベンガルカレー試食 鶴岡市出羽庄内国際村 2月20日)

### ○シャプラニール仙台ポンドウの会

- ・せんだい地球フェスタ出展 (手工芸品販売 仙台国際センター 9月23日)
- ・仙台グローカルさみっと出展 (活動紹介・展示 仙台市 JICA 東北 11月10日)
- ・海外協力車座トーク「地域からできること、私もできること」(坂口事務局長講演と交流会 仙台青年学生センター 11月28日)
- ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演会 仙台市市民活動サポートセンター 2月21日)

### ○シャプラニールとちぎ架け橋の会 (以下のほか毎月の定例会と年4回の通信「KAKEHASHI」の発行を行った)

- ・宇都宮大学新入生歓迎プログラム (宇都宮大学サークル「KAKEHASEEDS」による連続ミニ講座 宇都宮大学 4月18、25日、5月9日)
- ・フェスタ my 宇都宮 (手工芸品販売およびフリーマーケット 宇都宮東公園 5月13日)
- ・ミニ講演会 (中森職員によるフェアトレード講演会 宇都宮大学 5月16日)
- ・まちなか・せかいネット - とちぎ海外協力 NGO センター - 設立集会  
(栃木県内の海外協力 NGO のネットワーク立ち上げの呼びかけ 宇都宮市民活動サポートセンター 5月20日)
- ・松が峰教会バザー (手工芸品販売 カトリック松が峰教会 5月27日)
- ・勉強会  
(スリランカの文化と社会 (6月2日)、ワークショップ「人権について」(8月4日)、キューバの社会と人々の暮らし (11月3日)、タイの文化と社会 (12月1日) とちぎ国際交流センター等)
- ・国際交流パネル展 (ストリートチルドレンパネル展示と解説 宇都宮国際交流プラザ 7月30日～8月12日)
- ・フェアトレードシンポジウム (「タンザニア・パレスチナ農産物等のフェアトレードを考える」にパネリスト派遣 宇都宮大学 8月5日)
- ・宇都宮市国際交流協会 10周年記念活動紹介パネル展 (パネル展示と手工芸品販売 宇都宮市オリオン通り 8月26日)
- ・とちぎインターナショナルフェスティバル (ワークショップと手工芸品販売 栃木県子ども総合科学館 10月6日)
- ・サボセンまつり (他 NGO に対してワークショップの出前 宇都宮市東コミュニティーセンター 10月6日)
- ・宇都宮大学祭 (手工芸品販売、スリランカカレー販売、フリーマーケット 宇都宮大学 11月23～25日)
- ・街頭募金 (サイクロン被災者救援募金活動 宇都宮市中心街 12月8日)
- ・新年会 (パーティとお話「タイ北部の社会と NGO」講師: 宇都宮大学タイ留学生 とちぎ国際交流センター 1月12日)
- ・つどい・地球の仲間たち 2007 (全国キャラバン 2007) (小嶋前駐在員講演会・ノクシカタ展示 宇都宮国際交流プラザおよびカトリック松が峰教会 2月2～3日)

### ○シャプラニール新潟連絡会

- ・全国キャラバン 2007 受入  
(小嶋前駐在員講演会と 2004 年水害被災者講演ならびに手工芸品展示即売とパネル展示 新潟県三条市 (医) 川瀬神経内科クリニックおよびデイケアセンター 檜の森ホール 2月15日)

### ○シャプラニール金沢連絡会

- ・毎月の定例会にて、勉強会ならびにストリートチルドレンの寸劇シナリオを作成中。

### ○シャプラニール地域連絡会大阪 (以下のほか定例会を9回実施。地域連絡会大阪のサイトをリニューアル)

- ・未来をつくるフェアトレード (フェアトレードショップ INE 主催のイベントに参加 大阪市天王寺区フェアトレードショップ INE 5月27日)
- ・講師派遣 (ストリートチルドレンに関するワークショップおよび授業 大阪府立桃谷高等学校および立命館大学文学部 5月2日、15日)
- ・講師派遣 (ストリートチルドレンに関するワークショップ 大阪府立人権研究会夏季セミナー 7月10日)

- ・アイハウス夏祭り “The 脈” に出展 (フェアトレードに関する出展と販売 大阪国際交流センター 7月 22日)
  - ・シャプラニール 35 周年記念フォーラム (全体会パネルディスカッションのパネリスト JICA 地球ひろば 9月 1日)
  - ・講師派遣 (ストリートチルドレンに関する授業 富田林市明治池中学校 10月 26日)
  - ・フェアトレード・フェア (フェアトレード商品の展示販売 マイカル茨木 12月 1～2日)
  - ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演ならびに会員新年会 茨木市クラフトカフェー 11月 20日)
- シャプラニール福岡連絡会
- ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演会 福岡 YWCA 2月 7日)
- シャプラニール中津連絡会
- ・全国キャラバン 2007 受入 (小嶋前駐在員講演会 中津文化会館 2月 6日)

## ■助成団体・ODA 関連一覧

味の素「食と健康」国際協力支援プログラム：バングラデシュ・最貧困層  
 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン地域 NPO：バングラデシュ・少年少女グループ  
 社団法人海外運輸協力協会 (JTCA)：バングラデシュ・小規模融資  
 独立行政法人国際協力機構 (JICA)：バングラデシュ・農村開発／ネパール・防災農村開発  
 社団法人国際農林業協働協会 (JAICAF)：インド・バングラデシュ交流研修  
 財団法人地球市民財団：ネパール・住民組織の自立支援  
 日本労働組合総連合会 (連合) 愛のカンパ：バングラデシュ・農村開発  
 財団法人庭野平和財団：バングラデシュ・家事使用人として働く少女  
 三井住友銀行ボランティア基金：バングラデシュ・最貧困層  
 UI センセン同盟：バングラデシュ・児童教育  
 独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構：バングラデシュ・農村開発

## ■企業・団体との協働一覧 (五十音順)

<ステイ生活>

株式会社アースアフレイザル／あいおい損害保険株式会社／株式会社愛安住／株式会社アイテック株式会社／株式会社アイビーホーム／株式会社 IBC ソフトアルファ／有限会社アイホーム／アイランドホーム／有限会社アイリス／青木解体建設有限会社／アクロス・コーポレーション／浅野中古車センター／アジレント・テクノロジー株式会社／安達新産業株式会社／ア・テ・スエ！／アトリエビジョン株式会社／株式会社アプラス／株式会社天野回漕店／荒川区社会福祉協議会ボランティアセンター／アリンギ株式会社／アルト・ノイハウス／アルプス電気労働委員会／株式会社安城自動車学校／AND 技研株式会社／有限会社いしだ建窓／いすゞ自動車南九州株式会社／有限会社イソップハウス／有限会社市島一宮友の会／出光ホーム／インフォコム株式会社／植田会計事務所／植田病院／うさぎ屋／宇都宮県税事務所／株式会社エイデン／有限会社江崎ストアー／エジプト大使館／NHK 出版／NEC／株式会社エヌツー企画／江別友の会／株式会社近江美研／近江八幡市社会福祉協議会／大分友の会／大阪西ライオンズクラブ／大阪府立今宮高校生徒一同／株式会社 e-じだい／株式会社オートシステム／株式会社オーヨド／岡三証券株式会社／岡山友の会／沖縄県立八重山病院／財団法人沖縄県水産公社／沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合／沖縄県赤十字血液センター／沖縄ホンダ株式会社／尾崎商事株式会社／オムロン株式会社／温泉民宿海風荘／ガールスカウト日本連盟東京都第 43 団／ガールスカウト日本連盟千葉県第 60 団／花王株式会社／学伸塾／特別養護老人ホーム柏尾の里／株式会社柏商事／株式会社カネキ商店／株式会社河内鉄工所／川越友の会／かわ邊／基幹型地域生活支援センター・ゆう／北大阪商工協同組合／株式会社北九州設備／財団法人北九州国際交流協会／北九州友の会／有限会社北匠／キッコーマン株式会社／九州電力株式会社／特定非営利活動法人九州海外協力協会／キュービー株式会社／有限会社共栄自動車工業／株式会社京進／社団法人共同通信社／京都観光自動車株式会社／京都 YWCA／株式会社協和エクスオ／株式会社 QUICK／楠元タクシー有限会社／楠本会計事務所／国広書店／株式会社クボタ／窪田エンジニアズ株式会社／熊本市清水公民館／KUMON 若柳教室／グリーン自動車／特定非営利活動法人グループホーム清福苑／グレーストラベルエージェンシー株式会社／グローバルグラフィックス株式会社／KJ センター／有限会社ケイ・ユー・コピーシステム／高知前川種苗／株式会社孝文堂／神戸友の会／光明寺／コールひまわり／古賀市職員労働組合ユース部／国際運輸労連東京事務所／財団法人国

際協力推進協会国際協力プラザ／国際航業株式会社／特定非営利活動法人国際社会貢献センター／「国連識字の 10 年」市民交流委員会／有限会社小管製作所／株式会社コスモスイニシア／琴清苑／有限会社コトブキ住設／小松エレクトロニクス株式会社／小松島栄光教会有志一同／独立行政法人雇用・能力開発機構埼玉センター／近藤産業株式会社／斉藤和子税理士事務所／斎藤工業株式会社／有限会社齋藤豊店／佐賀県首都圏営業本部／佐久友の会／佐世保市社会福祉協議会／社会福祉法人さつき会／株式会社佐藤商会／株式会社さわやか倶楽部／有限会社サンキャリア／株式会社サンコートレーディング／三成工業株式会社／三洋マシン株式会社／山陽小野田市シルバー人材センター／三冷テック株式会社／サンワテクノス株式会社／株式会社 GA 建築設計社／株式会社シー・エフ・ネット／株式会社ジーシーエムコミュニケーション／株式会社ジェス・ワーク／株式会社 JTB 九州／JPU／社会福祉法人ジェロントピア新潟・特別養護老人ホームジェロントピア新潟／滋賀県大津林業事務所／社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会滋賀県ボランティアセンター／自然派くらぶ生活協同組合ボランティア虹／自治労横浜市従業員労働組合／株式会社シーティーエス／株式会社シミズ・ビルライフケア関西／株式会社シモウネ／下落みどり幼稚園／シャープ労働組合／JICA 東北支部／週刊建材新聞社／株式会社昭栄商会／昭和パックス労働組合／社団法人シルバー人材センター連合会／有限会社城間通信／Think the Earth プロジェクト／有限会社新興産業／新宿溝口クリニック／新星社西川印刷株式会社／新日本空調株式会社／株式会社新日本環境コンサルタント／株式会社新日本電気サービス／株式会社スカイ・シー／助六食品株式会社／株式会社スタジオアリス／スミショー株式会社／住友生命保険相互会社／諏訪友の会明日の友グループ／生長の家岩手県教化部／生長の家白鳩会・コールサルビア／積和不動産中部株式会社／株式会社セーコウ／社会福祉法人世田谷ボランティア協会玉川ボランティアビューロー／株式会社セブン銀行／全国労働金庫労働組合連合会／セント・メリー幼稚園母の会／株式会社創和建設／株式会社損害保険ジャパン／有限会社ダーマン キャスト／第一インテリア／第一生命保険相互会社／第一バック機工業株式会社／ダイエーユニオン／有限会社ダイエツオート／大綱建設株式会社／株式会社ダイサン／大昭和精機株式会社／大長金属／有限会社タイトック／台東リサイクルネットワーク／大雄院婦人会／大和無線電機株式会社／高岡市ボランティアセンター／高岡市社会福祉協議会／高砂薬業株式会社／株式会社高善装束店／タカラスタ

ンダード株式会社／有限会社田仲建工／多摩友の会青梅方面／ダンベル健康体操指導協会 DELA 新潟／社会福祉法人ちひろば会原町聖愛保育園／地球環境パートナーシッププラザ／中央労働災害防止協会／株式会社中部新都市サービス／長電バス株式会社／株式会社椿本チェイン／ティーエム・システムズ株式会社／株式会社テック柏／株式会社デリバリーサービス／有限会社東海モーターズ／東急リパブルネットワーク／東京第三友の会／東京第二友の会／東京電力株式会社／東京ボランティア・市民活動センター／東芝ファイナンス株式会社／株式会社トウ・ソリューションズ／洞爺湖健康リゾート興発株式会社／東洋経済新報社／東洋紡績労働組合／有限会社遠賀クレーン工業／株式会社徳島健康科学総合センター／ドコモサービス株式会社／株式会社都市デザインシステム／株式会社トダ／有限会社トップエンタープライズ／富山友の会／株式会社とよしょう工務店／トヨタカローラ宮城株式会社／虎姫町社会福祉協議会／トリフォ株式会社／株式会社トレンズ／株式会社ナイステム／長崎漁港水産加工団地協同組合／有限会社中貳工業／長野県立駒ヶ根病院／株式会社中山石架／なぎの木園作業所／那須塩原市ボランティアセンター／奈良友の会／奈良中央信用金庫／成光技研株式会社／成光建設株式会社／西日本高速道路株式会社／西宮市役所／西宮友の会甲子園方面／動物病院 22 時西原病院／ニチイ学館労働組合／ニックベットケア株式会社／日産自動車株式会社／日新興業株式会社／日本アイ・ピー・エム株式会社／日本紙パルプ商事株式会社／日本航空山口宇部空港所／日本商工会議所／日本精工労働組合／日本生命保険相互会社／株式会社日本トリム／日本乳化剤株式会社／日本ヒューレット・パッカード株式会社／日本ファシリティ・ソリューション株式会社／日本マクドナルド株式会社／日本モレックス株式会社／日本郵政公社労働組合／日本ユニシスグループ／日本トラビル株式会社／株式会社ニューメディア総研／念法真教鳴門念法寺／株式会社ノリタケカンパニーリミテド／パイオニア株式会社／八十二銀行／八丈町社会福祉協議会ボランティアコーナー／播磨町国際交流協会／パル 21／株式会社ハローズ／株式会社ビーエス機工／株式会社ビームス／東麻布法律事務所／株式会社東日本臨床医学研究所／有限会社日立建設／株式会社日立ビルシステム／株式会社日立物流／ヒノキ肌製品大阪中央販売株式会社／日野町社会福祉協議会／有限会社ピュアワールド／ファーストライフ株式会社／ファイザー株式会社／Fun International／株式会社ファンケル／VCJ コーポレーション株式会社／フィリップモリスジャパン株式会社／深川友の会／福岡友の会／福岡県エルビーガススタンド協会／福岡興産運輸有限会社／福博株式会社／富国生命保険相互会社／株式会社フジ・アート／ふじヶ丘保育園子育てセンター／藤田自動車整備工場／フジタ自動車工業株式会社／株式会社フジネオン／株式会社富士松／有限会社藤村仏具本店／藤本司法書士・行政書士事務所／有限会社ブラウンスフィールド／プラザスタイル株式会社／ブルーインの森／フロインドリーブ ジャーマン・ホーム・ペーカー／豊後大野市役所／株式会社ベストライフ／財団法人ベターホーム協会／株式会社北大工業／前橋市社会福祉協議会／またたび本舗／町田友の会／松下運輸株式会社／松原油業株式会社／株式会社松屋珍味／まみい保育園／株式会社マルサ／有限会社マワタリ／株式会社万田モーター／三浦工業株式会社・株式会社三浦プロテック・三浦インターナショナル株式会社／三井住友海上火災保険株式会社／三井不動産住宅リース株式会社／三井市セミナー／三菱化学エンジニアリング株式会社／三菱化学株式会社／三菱重工業株式会社／三菱商事株式会社／三菱東京 UFJ 銀行／みどりの農業協同組合／南相馬市国際交流協会／峯田電機／財団法人宮城県国際交流協会／株式会社深山／美山病院／麦工房／武蔵野友の会／有限会社モールドプロテック／株式会社モトヤマ／株式会社モリタ／森のガラス館／国立公園・滑床森の国ロッジ／森ビル株式会社／有限会社もり

もと商事／八光商事株式会社／山内嘉弘事務所／株式会社山田製作所／ヤマトガワ株式会社／山本計器製造株式会社／UI ゼンセン同盟／UI ゼンセン同盟クラレグループ労働組合連合会／ユーシーシーヒューマンインタレストソサエティ／UBS 証券会社／株式会社ユニオンコーポレーション／ユニオンモーターズ有限会社／株式会社ユニケソフトウェアリサーチ／社会福祉法人横須賀基督教社会館／横浜市磯子区社会福祉協議会／有限会社横山板金工業／吉川市国際友好協会／株式会社ライズ／リコー中部株式会社／株式会社リセント／竜王町社会福祉協議会／ロイクロ銀座店／ロイター・ジャパン株式会社／ROLLING CRADLE／株式会社ワールドサポート／Yz

#### <クラフトリンク>

アーンストアンドヤング・トランザクション・アドバイザー・サービス株式会社／ACE／ABM AMRO BANK／OFS（オフス）／生活協同組合バルシステム神奈川ゆめコープ／キックマン株式会社／クラレ労働組合／グリーンコープかごしま生協／慶應義塾生活協同組合／コクヨ株式会社／株式会社ジャパンエナジー／株式会社損害保険ジャパン／株式会社損保ジャパン情報サービス／ダイエーユニオン／株式会社テレビ神奈川／東京海上日動火災保険株式会社／生活協同組合東京マイコープ／株式会社幻冬舎／生活協同組合ドウコープ／株式会社東芝／日産自動車株式会社／日本モレックス株式会社／株式会社ネンキ／株式会社日立製作所／ファイザー株式会社／株式会社マイチケット／三菱商事株式会社／株式会社ヤラクサス館／UI ゼンセン同盟／早稲田大学生生活協同組合

#### <サイクロン「シドル」被災者支援募金>

アサヒワンビールクラブ／アーユス仏教国際協力ネットワーク／アルス in 福岡／市川友の会／伊藤忠商事株式会社／財団法人茨城県国際交流協会／WE21 ジャパン／みどり／浦和友の会／大津友の会／財団法人大友福祉振興財団／学習院女子大学 GlobalPeople 同好会／株式会社カタログハウス／神奈川区国際協力ネットワーク／特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会／北九州友の会／グンゼ株式会社／静岡英和学院大学ダンスサークル／静岡英和学院大学ボランティアセンター／自然派くらぶ生活協同組合／NGO 自敬寺／自治労・エファジャパン／下館幼稚園／シャプラニールとちぎ架け橋の会／シャプラニール金沢連絡会／シャプラニール仙台・ポンドウの会／シャプラニール町田架け橋の会およびエスペランサ／Think the Earth プロジェクト／真如苑／スローウェブショップ膳／生活協同組合コープやまなし／政府関係法人労働組合連合／全国友の会中央部／仙台キリスト教学生センター／仙台白百合学園中学校 2 年生／株式会社損害保険ジャパンちきゅうくらぶ／ダッカ日本人会／ダッカ日本人学校／多摩友の会／株式会社ちえのわハウス／財団法人地球市民財団／特定非営利活動法人 地球の木／CHOCOLIT／東京第一友の会／東京第三友の会／調布 WAT／T シャツアトリエなちゆるる宇宙人／株式会社デザイン FF／株式会社電通（社員ボランティア募金を含む）／都賀治療院／豊島北教会日曜学校／「なかまの家」／ニコニコ村／婦人友友社／ホールアース自然学校／松下電器産業株式会社／三井住友海上保険株式会社／三菱商事株式会社／宮の台幼稚園／UI ゼンセン同盟／四日市友の会／よねやま歯科医院／日本労働組合総連合会愛のキャンパ／立正佼成会

#### <その他>

NEC（フェアトレード・フェア協賛）／日産自動車株式会社（NPO ラーニング奨学生受入）／ノースウエスト航空会社（エアケア・チャリティ・プログラム、往復航空券プレゼント）

## ■協力団体・委員会等一覧（2007 年度 法人格略）

国際協力 NGO センター（JANIC）（理事長）  
2008 年 G8 サミット NGO フォーラム（副代表）  
日本 NPO センター（評議員）  
ほっとけない世界のまずしさ（理事）  
庭野平和財団（南アジアプログラムアドバイザー）  
アトム通貨実行委員会（委員）  
シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会（会員）

開発教育協会（会員）  
JICA バングラデシュ PRDP 国内支援委員会（委員）  
NGO・JICA 評価小委員会（委員）  
NGO - 労働組合国際協働フォーラム（委員）  
中央共同募金会企画・推進委員会（委員）  
株式会社電通 NPO 広報力向上委員会（委員）

## ■会員・寄付者分布

都道府県名	会員	寄付者	マンスリーサポーター	都道府県名	会員	寄付者	マンスリーサポーター
北海道	84	89	41	鳥取県	4	14	4
北海道計	84	89	41	島根県	6	10	1
岩手県	10	16	2	岡山県	20	18	10
青森県	7	23	2	広島県	28	44	13
宮城県	28	48	7	山口県	25	38	7
秋田県	11	8	4	中国計	83	124	35
山形県	11	12	4	徳島県	11	17	2
福島県	28	29	9	香川県	5	10	2
東北計	95	136	28	愛媛県	18	21	8
茨城県	39	31	14	高知県	4	10	1
栃木県	40	33	13	四国計	38	58	13
群馬県	22	22	10	福岡県	59	72	29
埼玉県	129	126	43	佐賀県	4	11	2
千葉県	149	135	49	長崎県	15	22	6
東京都	671	692	253	熊本県	7	11	2
神奈川	279	372	97	大分県	20	11	8
関東計	1,329	1,411	479	宮崎県	6	5	1
山梨県	21	17	3	鹿児島	17	15	7
長野県	38	43	12	沖縄県	16	11	10
新潟県	28	38	13	九州沖縄計	144	158	65
富山県	11	7	1	海外	30	5	1
石川県	29	10	2	海外計	30	5	1
福井県	5	3	1	不明		29	
甲信越計	132	118	32	総計	2,404	2,699	839
岐阜県	16	16	9				
静岡県	66	77	15				
愛知県	104	112	24				
三重県	26	36	11				
東海計	212	241	59				
滋賀県	10	18	4				
京都府	51	71	23				
大阪府	117	145	34				
兵庫県	52	82	17				
奈良県	22	36	6				
和歌山	5	7	2				
近畿計	257	359	86				

## ■執行部一覧（2008年3月31日現在）

○代表理事

中田豊一

○理事

岩城幸男、大橋正明、坂口和隆、里見駿介、田尻佳史、辻村聖子、長畑誠、野口豊（磯野昌子1月辞任、牛尾紀美子10月辞任）

○監事

雨森孝悦、梅沢良雄、福澤郁文

○評議員

荒木美奈子、池田恵子、遠藤大輔、金子博、萱野智篤、川村宏義、北河原孝子、下澤嶽、ジュエル M.Q.、庄野真代、白土謙二、杉澤経子、鈴木隆二、竹中千春、田中浩平、東田芳治、徳木久人、永井幸子、長沢恵美子、中本かほる、西野桂子、子島進、肥下彰男、

広瀬麗子、前澤哲爾、山崎みどり、吉田ユリノ

○事務局長

坂口和隆

○事務局スタッフ

秋庭智也、石井大輔（8月入職）、植田貴子、内山智子（9月バン格拉デシュへ赴任）、小嶋淳史（12月バン格拉デシュより帰任）、勝井裕美、小松豊明、白幡利雄、杉山和明、筒井哲朗（次長）、中村怜奈、中森あゆみ（11月退職）、藤岡恵美子（バン格拉デシュ駐在員）、藤崎文子（ネパール駐在員）、松本芳美

# 2007 年度決算と 2008 年度収支予算

## 1. 2007 年度決算

2007 年度の決算に係る会計監査は公認会計士佐藤泰久氏により 5 月 20 日に終了し、理事の業務執行の状況及び財産の状況についての監査は同日 3 名の監事により行われ、当会の会計報告書は 2008 年 3 月 31 日現在の財政状態及び同日をもって終わる期間の収支の状態を適正に表示している旨の報告を受けた。

2007 年度の収支状況は、収入合計 2 億 4,301 万円（前期比 4,171 万円増）、支出合計 2 億 4,877 万円（前期比 3,946 万円増）となり、その結果 576 万円の赤字となった。また本体会計単体では 1,021 万円の赤字となったが、特に補助金（外務省 NGO 支援無償）の申請作業時期が、サイクロン緊急救援活動の時期と重なり、後者を優先さざるを得なかったため、結局この分の収入は次年度に持ち越されたこと等による。

- ・会費収入は 2,326 万円（前期比 3 万円減、0.1% 減）と前期並み。
- ・寄付金収入は 5,919 万円（前期比 550 万円減、8.5% 減）と前期を下回ったものの予算比では 98.7% を達成。
- ・非自己財源の各収入（助成金、補助金、国際ボランティア貯金、JICA 連携収入）はいずれも低調（各収入合計の予算比 53.1%、△ 2,825 万円）。
- ・クラフトリンク活動は、収入 6,924 万円（前期比 732 万円増、11.8% 増）と順調に売上を伸ばした結果、活動収支は 28 万円の黒字を計上。
- ・知的貢献活動は、講師派遣等が低調に推移したため、収入、支出とも予算額を下回る結果となった（緊急救援収入を除いた収入合計に占める割合 6.1%）。
- ・海外活動費は、予算比 82.7%（予算比：バングラデシュ活動費 85.2%、ネパール活動費 74.5%、インド活動費 75.2%）。
- ・緊急救援活動は、サイクロン救援活動費として 2007 年度中に 1,651 万円を現地に送金し、2008 年度以降の復興支援活動費として 1,397 万円を未払金計上した。また管理費相当分（直接費の 20%）を本体会計の関連部署の管理費に振替を行っている。
- ・みらいファンドは、預託 34 件（940 万円）が満期等により解約となり、うち 27 件（670 万円）が再預託、2 件（12 万円）がみらい寄付への振替となった。よって期末残高は 2,339 万円（預託分 1,280 万円、寄付分 1,059 万円）。
- ・支出合計（緊急救援会計を除く）に占めるスタッフ人件費

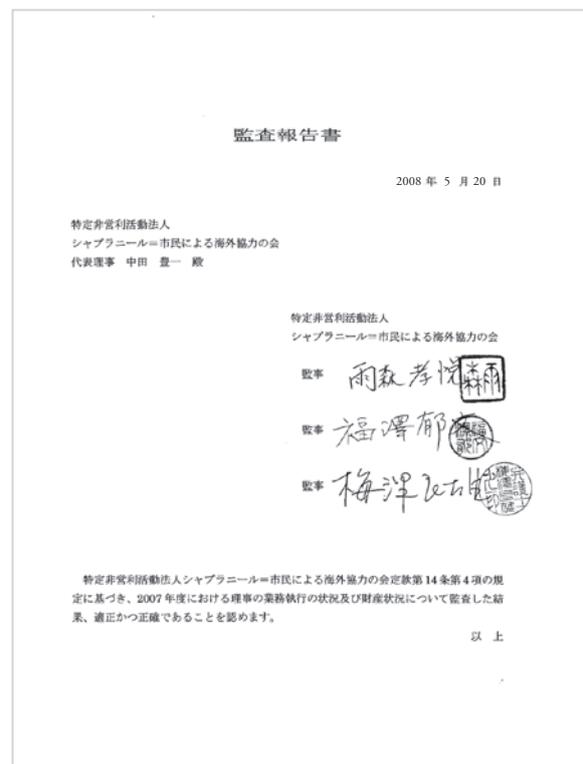
の割合は 36.0%。

- ・自己財源率は前期比 3.3 ポイント増の 86.8%（緊急救援会計を除いた場合は 84.0%）となった。

## 2. 2008 年度収支予算

2008 年度収支予算案は収入合計、支出合計とも 2 億 5,077 万円を計上し、前期予算比 2,076 万円増、収入は前期実績比 5,066 万円増を見込んでいる（但し緊急救援収入を除く）。主な内容は以下のとおり。

- ・収入項目は、前期実績比で寄付金収入 376 万円増、助成金収入 282 万円増、補助金収入 2,350 万円増、クラフトリンク活動収入 895 万円増等の増収を見込んでいる。
- ・各活動の管理費について前期予算比で増減が大きいのは、主に人件費等の配賦率を変更したため。
- ・支出合計（緊急救援会計を除く）に占めるスタッフ人件費の割合は 30.8%。
- ・自己財源率は 73.8%。



特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

(単位:円)

科目	2007 年度予算	2007 年度決算			2008 年度予算
		本 体	緊急救援	合 計	
I . 収入の部					
会費収入	23,500,000	23,265,362		23,265,362	23,319,000
寄付金収入	60,000,000	59,197,741		59,197,741	62,960,000
緊急救援収入	0		42,899,531	42,899,531	0
助成金収入	18,242,000	13,736,852		13,736,852	16,560,000
補助金収入	19,800,000	0		0	23,500,000
国際ボランティア貯金	11,000,000	10,889,251		10,889,251	9,591,000
JICA 連携収入	11,230,000	7,393,191		7,393,191	16,037,000
クラフトリンク活動収入	67,700,000	69,243,776		69,243,776	78,200,000
国内活動収入	4,602,000	3,994,834		3,994,834	6,647,000
スタディツアー	1,565,000	1,801,823		1,801,823	3,767,000
ユースフォーラム	1,000,000	620,000		620,000	1,000,000
キャラバン	1,200,000	617,211		617,211	900,000
開発教育教材	150,000	154,500		154,500	180,000
入門講座等	230,000	342,500		342,500	800,000
35 周年事業収入	457,000	458,800		458,800	0
知的貢献活動収入	13,900,000	12,258,033		12,258,033	13,625,000
雑収入	36,000	132,295		132,295	340,000
当期収入合計 (A)	230,010,000	200,111,335	42,899,531	243,010,866	250,779,000
前期繰越収支差額	65,443,698	13,387,836	52,055,862	65,443,698	59,676,357
収入合計 (B)	295,453,698	213,499,171	94,955,393	308,454,564	310,455,357
II . 支出の部					
海外活動費	97,800,000	80,924,975		80,924,975	104,209,000
バン格拉デシュ活動費	56,331,000	47,973,871		47,973,871	62,525,000
ネパール活動費	23,623,000	17,587,990		17,587,990	23,764,000
インド活動費	2,519,000	1,893,210		1,893,210	1,972,000
海外活動管理費	15,327,000	13,469,904		13,469,904	15,949,000
クラフトリンク活動費	67,700,000	68,994,072		68,994,072	78,200,000
売上原価	24,190,000	24,238,181		24,238,181	28,066,000
販売費	13,712,000	14,274,066		14,274,066	15,780,000
一般管理費	29,798,000	30,481,825		30,481,825	34,354,000
国内活動費	4,028,000	4,056,910		4,056,910	9,288,000
スタディツアー	881,000	1,758,700		1,758,700	3,310,000
ユースフォーラム	800,000	525,655		525,655	800,000
キャラバン	1,000,000	698,272		698,272	1,000,000
開発教育教材	100,000	76,147		76,147	100,000
入門講座等	120,000	164,875		164,875	100,000
地域活動費	300,000	57,655		57,655	800,000
35 周年事業費	827,000	775,606		775,606	0
国内活動管理費	0	0		0	3,178,000
支援企画管理費	18,009,000	17,066,541		17,066,541	18,300,000
広報活動費	14,922,000	13,342,118		13,342,118	18,714,000
広報費	2,932,000	2,968,799		2,968,799	3,499,000
広報活動管理費	11,990,000	10,373,319		10,373,319	15,215,000
本部管理費	21,661,000	16,196,283		16,196,283	13,999,000
緊急救援活動費	0	0	38,455,137	38,455,137	0
知的貢献活動費	5,890,000	9,742,171		9,742,171	8,069,000
当期支出合計 (C)	230,010,000	210,323,070	38,455,137	248,778,207	250,779,000
当期収支差額 (A)-(C)	0	△ 10,211,735	4,444,394	△ 5,767,341	0
次期繰越収支差額 (B)-(C)	65,443,698	3,176,101	56,500,256	59,676,357	59,676,357

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表  
(2008年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	本 体	緊急救援	みらい	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	1,427,735	36,053,036		37,480,771
売掛金(注1)	7,924,549			7,924,549
有価証券		5,383,420		5,383,420
商品	17,472,760			17,472,760
貯蔵品	6,557,214			6,557,214
未収金	6,503,738			6,503,738
前払費用	346,209			346,209
仮払金	105,500			105,500
前払金	2,534,607			2,534,607
特別会計貸付		29,046,890	3,000,000	(32,046,890)
2. 固定資産				
什器備品	20,458			20,458
電話加入権	74,984			74,984
その他無形固定資産	201,705			201,705
退職積立預貯金	10,487,247			10,487,247
敷金	581,040			581,040
基本金積立預金	609,464			609,464
みらいファンド預金			20,394,866	20,394,866
資産合計	54,847,210	70,483,346	23,394,866	116,678,532
II 負債の部				
1. 流動負債				
買掛金	873,651			873,651
商品券	48,000			48,000
未払金	3,190,544	13,983,090		17,173,634
前受金	605,273			605,273
預り源泉所得税	237,463			237,463
預り住民税	131,400			131,400
未払消費税	758,900			758,900
賞与引当金	2,699,056			2,699,056
特別会計借入	32,046,890			(32,046,890)
2. 固定負債				
みらいファンド預託金			12,800,000	12,800,000
退職給付引当金	10,470,468			10,470,468
負債合計	51,061,645	13,983,090	12,800,000	45,797,845
III 正味財産の部				
基本金	609,464			609,464
みらいファンド			10,594,866	10,594,866
次期繰越収支差額	3,176,101	56,500,256		59,676,357
(うち当期収支差額)	(△10,211,735)	(4,444,394)		(△5,767,341)
正味財産合計	3,785,565	56,500,256	10,594,866	70,880,687
負債及び正味財産合計	54,847,210	70,483,346	23,394,866	116,678,532

(注記事項)

1. 売掛金の貸倒引当金は276,370円である。

特定非営利活動に係る事業会計財産目録  
(2008年3月31日現在)

(単位：円)

科 目		金 額	
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	現金手許有高	932,884	
預貯金	郵便貯金 馬場下町郵便局	1,110,924	
	郵便振替口座 馬場下町郵便局	5,436,026	
	三菱東京 UFJ 銀行 高田馬場支店	30,000,937	
売掛金 (注1)	手工芸品関連	7,924,549	
有価証券	公社債投信 野村證券株式会社	5,383,420	
商品		17,472,760	
貯蔵品	切手等	6,557,214	
未収金	ブックオフ物流株式会社	950,868	
	独立行政法人 国際協力機構	2,863,241	
	社団法人 海外運輸協力協会	2,254,629	
	株式会社 小学館	315,000	
	株式会社 ヒラタオフィス	120,000	
前払費用	日新火災海上保険株式会社	315,129	
	ファーストサーバー株式会社	10,080	
	理想科学工業株式会社	21,000	
仮払金	出張仮払金等	105,500	
前払金	シャプラニールタッカ事務所	750,475	
	有限会社ぐらする一つ	30,900	
	トップツアー株式会社	321,310	
	現地パートナー団体プロジェクト費次期繰越分	1,431,922	
	流動資産合計		84,308,768
2. 固定資産			
	什器備品	20,458	
	電話加入権	74,984	
	その他無形固定資産	201,705	
退職積立預貯金	定額郵便貯金 馬場下町郵便局	2,093,047	
	三菱東京 UFJ 銀行 高田馬場支店	8,394,200	
敷金	財団法人 早稲田奉仕園	581,040	
基本金積立預金	三菱東京 UFJ 銀行 高田馬場支店	609,464	
みらいファンド預金	三菱東京 UFJ 銀行 高田馬場支店	20,394,866	
	固定資産合計		32,369,764
	資産合計		116,678,532
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
買掛金	One World (Nepal) Trading	873,651	
商品券		48,000	
未払金	東日本電信電話株式会社	32,125	
	財団法人 早稲田奉仕園	52,419	
	藤ビルメンテナンス株式会社	11,550	
	ヤマト運輸株式会社	742,446	
	郵便事業株式会社	2,355	
	日本テレネット株式会社	4,662	
	株式会社大塚商会	7,770	
	楽天株式会社	65,291	
	佐川急便株式会社	198,683	
	日本通運株式会社	144,575	
	株式会社マイチケット	81,960	
	株式会社 NTT-ME	1,155	
	有限責任中間法人 2025PROJECT	705,364	
	現地パートナー団体 PAPRI	306,034	
	現地パートナー団体 JJS	13,977,490	
	社会保険事務所	551,166	
	東京労働局	48,525	
	その他	240,064	
前受金	財団法人 庭野平和財団	466,667	
	手工芸品関連	138,606	
預り源泉所得税		237,463	
預り住民税		131,400	
未払消費税		758,900	
賞与引当金		2,699,056	
	流動負債計		22,527,377
2. 固定負債			
みらいファンド預託金		12,800,000	
退職給付引当金		10,470,468	
	固定負債計		23,270,468
	負債合計		45,797,845
	正味財産		70,880,687
	負債及び正味財産合計		116,678,532

(注記事項)

1. 売掛金の貸倒引当金は 276,370 円である。

## (参考1) クラフトリンク活動収支

(単位：千円)

	2006 年度決算	2007 年度予算	2007 年度決算案	2008 年度予算案
売上高	61,917	67,700	69,244	78,200
売上原価	22,873	24,190	24,238	28,066
期首商品棚卸高	14,159	16,001	16,001	17,473
当期商品仕入高	24,715	24,818	25,709	27,989
海外仕入	23,473	24,000	24,822	26,200
国内仕入	1,242	818	887	1,789
期末商品棚卸高	16,001	16,630	17,473	17,396
売上総利益	39,044	43,510	45,006	50,134
販売費及び一般管理費	43,230	43,510	44,756	50,134
販売費	13,480	13,712	14,274	15,780
一般管理費	29,749	29,798	30,482	34,354
営業利益	△ 4,186	0	250	0
営業外収益	7	0	30	0
営業外費用	0	0	0	0
経常利益	△ 4,179	0	280	0

## (参考2) みらいファンド残高増減

(単位：千円)

区分	期首残高	2007 年度の増減		期末残高
		減	増	
みらいファンド預託金	15,500	9,400	6,700	12,800
みらいファンド	10,475	0	120	10,595
合計	25,975	9,400	6,820	23,395

## (参考3) 緊急救援活動収支

(単位：千円)

	バングラデシュ サイクロン	バングラデシュ 洪水	その他	計
I. 収入の部				
救援募金収入	42,876	2	22	42,900
収入計①	42,876	2	22	42,900
II. 支出の部				
1. 直接費				
他団体送金	30,495	67	386	30,949
旅費交通費	1,036	0	0	1,036
諸雑費	60	0	1	61
直接費計②	31,592	67	387	32,046
2. 間接費				
事務管理費	6,318	13	77	6,409
間接費計③	6,318	13	77	6,409
支出計④ (② + ③)	37,910	81	464	38,455
収支差額 (① - ④)	4,965	△ 79	△ 442	4,444

## (参考4) 収支計算書推移

(単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度
I. 収入の部			
会費収入	23,324	23,299	23,265
寄付金収入	52,056	64,702	59,198
補助金 / 助成金収入	56,403	33,186	32,019
クラフトリンク活動収入	60,006	61,917	69,244
開発教育活動収入	2,164	3,070	3,536
知的貢献活動収入	16,764	14,820	12,258
緊急救援収入	8,229	263	42,900
雑収入等	628	42	591
当期収入合計 (A)	219,574	201,300	243,011
前期繰越収支差額	76,145	73,455	65,444
収入合計 (B)	295,719	274,755	308,455
II. 支出の部			
海外活動費	82,300	76,758	80,925
クラフトリンク活動費	64,489	66,102	68,994
国内活動費	30,522	19,624	21,123
広報活動費	12,431	14,605	13,342
本部管理費	9,783	21,537	16,196
知的貢献活動支出	13,629	9,299	9,742
緊急救援活動費	9,109	1,386	38,455
雑損失	0	0	0
当期支出合計 (C)	222,264	209,312	248,778
当期収支差額 (A) - (C)	△ 2,690	△ 8,011	△ 5,767
次期繰越収支差額 (B) - (C)	73,455	65,444	59,676

## (参考5) 貸借対照表推移

(単位：千円)

	2005年度	2006年度	2007年度
I 資産の部			
1. 流動資産	79,616	73,762	84,309
うち 商品	14,159	16,001	17,473
2. 固定資産	34,849	35,721	32,370
資産合計	114,465	109,483	116,679
II 負債の部			
1. 流動負債	7,635	9,008	22,527
2. 固定負債	22,291	23,946	23,270
うち みらいファンド預託金	15,600	15,500	12,800
負債合計	29,926	32,955	45,798
III 正味財産の部			
基本金	609	609	609
みらいファンド	10,475	10,475	10,595
次期繰越収支差額	73,455	65,444	59,676
正味財産合計	84,539	76,528	70,881
負債及び正味財産合計	114,465	109,483	116,679

# 2008 年度役員一覧

## 代表理事

中田豊一（参加型開発研究所 代表）

## 理事（10名）

岩城幸男（ボランティア）

大橋正明（恵泉女学園大学 教員）

里見駿介（財団法人海外職業訓練協会（OVTA）国際アドバイザー）

城千聡

（練馬ボランティア・市民活動センターボランティアコーディネーター）

田尻佳史（特定非営利活動法人日本 NPO センター理事・事務局長）

辻村聖子（元浦安市文化国際課長）

筒井哲朗（シャプラニール事務局長）

長畑誠（いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク）

中本かほる（財団法人福岡 YWCA 理事）

## 監事（3名）

雨森孝悦（日本福祉大学教授・国際センター長）

梅沢良雄（弁護士）

福澤郁文（株式会社デザイン FF 代表／グラフィックデザイナー）

## 評議員（29名）

荒木美奈子（お茶の水大学 教員）

五十嵐理奈（福岡アジア美術館 学芸員）

池田恵子（静岡大学 教員）

岩附由香（児童労働を考える NGO ACE 代表）

遠藤絵理子（シャプラニール地域連絡会大阪 代表）

遠藤大輔（コース・チームボランティア）

川村宏義（あおもり開発教育研究会）

萱野智篤（北星学園大学 教員）

北河原孝子（シャプラニール奈良連絡会 代表）

斉藤千宏（日本福祉大学 教授）

坂口和隆（特定非営利活動法人日本 NPO センター事務局長次長）

佐竹町子（コース・チーム幹事）

下澤嶽（ジュマ・ネット 代表）

庄野真代（歌手、特定非営利活動法人国境なき楽団 代表）

ジュエル・M.Q.（シャプラニール劇団）

白土謙二（株式会社電通 プランニング・ディレクター）

杉澤経子

（東京外国語大学多言語・多文化教育研究センタープログラムコーディネーター）

鈴木隆二（ぐらする一つ 代表）

田中浩平（特定非営利活動法人 開発教育協会 理事）

東田芳治（ボランティア）

徳木久人（ボランティア）

永井幸子（UI ゼンセン同盟）

長沢恵美子（経済団体職員）

新村恵美（目白大学 教員）

西野桂子

（特定非営利活動法人ジーエルエム・インスティテュート 代表理事）

子島進（東洋大学国際地域学部 准教授）

前澤哲爾（全国フィルム・コミッション連絡協議会専務理事）

山崎みどり（全国友の会中央部中央委員）

吉田ユリノ（シャプラニールとちぎ架け橋の会 代表）



# シャプラニール用語集

## ■海外活動

### エスニックマイノリティ

いわゆる少数民族のことを指す場合が多いが、民族という用語の意味するものが多様であるため、ここでは言語や文化などによって規定される特定の支配階層や集団に対し、相対的に従属するような立場におかれている人々を指すこととする。

### エンパワー／エンパワメント

人々の意識と能力の向上。または向上すること。用法によって多くの定義が存在するが、シャプラニールでは主に、当事者が自ら課題を認識し、その解決に向けて行動するための力がつくことを指して用いている。

### 家事使用人

バングラデシュはもちろんのこと、南アジアでは中産階級以上の多くの家庭が、いわゆる「お手伝いさん」を雇用している。費用が安いという理由で子どもを使う例が多く、シャプラニールでは職業としての家政婦と区別するためにこの表現を用いている。

### 家政婦

本人の意志とは関係なく働かされている子どもの家事使用人と区別するために用いている表現。シャプラニールでは現在、コルカタ周辺で家政婦として働く成人女性への支援活動を行っている。

### 寡婦

夫を事故や病気で亡くした女性のことを、便宜的に指す。女性に対する社会的な制約が多く、就業機会も非常に限られているバングラデシュの社会において、子どものいる、いないにかかわらず厳しい生活状況におかれている場合が多い。

### 最貧困層

貧困層の中でも経済的に最も貧しく、厳しい生活状況にある人々のこと。一口に貧困層といっても、その経済指標の取り方によっては膨大な数の人々を示すことになるため、相対的な表現として用いる。

### ストリートチルドレン

都市部の路上を生活の基盤とする子どもたちのこと。狭義には親元を離れ、家をもたずに生活する子どもを指すが、広義には家族ともにスラム等に住みながら一日の大半を路上で暮らしている子どもを含めて用いる。

### ダリット

ネパールやインドで「不可触民」とされてきたカースト制度の最底辺に位置づけられる人々のこと。日常生活に必要な様々な職能をもっているものの、社会経済的に様々な差別を受けている。

### チョール

ベンガル語で中洲のこと。雨期になると消滅してしまうものから、100年以上も前から存在し、学校や市場が存在するものまで、様々なものがある。チョールに住む人々の生活は、一般の地域のそれよりも厳しいとされる。

### ネワール族

カトマンズ盆地の先住民。18世紀にゴルカ王朝がカトマンズ盆地を占拠して以降、エスニックマイノリティとして存在。

### 働く子どもたち

狭義のストリートチルドレンと区別するため、親元から通い、または住み込みで働いている子どもたちのことを指して用いている。ネパールでは都市部で、またバングラデシュでは農村部、都市部ともにこうした子どもへの支援活動に取り組んでいる。

### パートナー団体

シャプラニールと理念や価値観を共有し、ともに活動するローカルNGOのこと。地域や課題によって多くの組織がシャプラニールとパートナーシップを結んでおり、現場での活動実施を担っている。

### マイクロクレジット

貧困層を対象に、貧困緩和を目的として行われる少額の無担保融資のこと。バングラデシュのグラミン銀行によって開発されたモデルが世界的に知られており、シャプラニールも1980年代後半から活動の一部として取り組んでいる。

## ■クラフトリンク

### オリジナルプリントバッグ

社名やロゴを印刷したジュートのオリジナル・バッグ。NGOや労組、地方自治体などからの注文が来ている。マイバッグを持つ意識の高まりに伴い、問い合わせが増えている。

### クラフトリンク南風

2003年よりフェアトレード部門の呼称として「クラフトリンク」を使用している。これにはクラフト（手工芸品）を通して人々がつながり（リンク）、皆が共生できる社会づくりを目指すという意味が込められている。また、クラフトリンクが扱う製品を南（南アジア）の風（人々、生活、文化、活動）を伝える媒体として捉え、ブランド名を「南風（なんふう）」とした。

### ジュート

バングラデシュが世界に誇る特産品。他の植物と比べて5～6倍の二酸化炭素を吸収することから、地球温暖化を抑制する働きがあると注目されている。また土に埋めるとバクテリアによって完全に分解される環境にやさしい天然素材。日本語では黄麻（こうま）。

## トラカムバック

阪神タイガース承認のバッグ。ネパールのパートナー団体 WSDP によって生産され、売上の一部が野生のトラ保護活動に寄付される。市民活動団体「2025 プロジェクト」との協働により販売キャンペーンを実施、大きな反響を得た。

## ノクシカタ

「ノクシ」はデザイン、「カタ」は布という意味。古くなったサリーなどの布を何層かに重ねて刺しゅうを施し、肌掛けなどとして再利用する刺しゅうの技術が母から娘へ受け継がれてきた。今では女性の生活向上のためにこの技術を活かした商品作りが行われている。

## 楽天市場（インターネット販売）

日本最大級のインターネット上の通信販売ショッピングモール。店舗数は 65,000 を超える。シャプラニールは 2003 年から「クラフトリンク南風（なんぷう）」の店舗名で出店している。

## フェアトレード

日本語では公正貿易と訳される。生産者の生活向上を目的とした、対等な貿易の関係。ヨーロッパやアメリカを中心に広がり、近年日本でも関心が高まりつつある。

## ■国内活動

### ウェブサイト等有料広告

インターネットの有料広告で、インターネットで検索エンジンの検索語に関連した広告を選択して掲載する検索広告や 1 行から数行の文を掲載するテキスト広告、横長の画像をページ上下などに掲載するバナー広告などがある。

### エコライフフェア

毎年 6 月の環境月間に、東京都立代々木公園で開催される環境省（他 16 団体）主催のイベント。2007 年は、6/2（土）～3（日）の 2 日間に約 6 万 4 千人が来場し、企業、団体、NGO・NPO、飲食など全 72 ブースが出店して環境活動の PR を行った。当会はステナイ生活の紹介を行った。

### 国内活動行動指針

2006 年度中期方針の議論の過程で、国内活動についても他の活動事業同様指針策定の必要が唱えられた。日本国内に住む市民自らが当事者としてよりよい社会に変えていこうとする動きを創り出すため、シャプラニールに参加するすべての人を対象にこの指針が作られた。これにより、「海外活動行動指針」「クラフトリンク活動指針」とあわせて 3 つの行動指針が策定されている。

## CSR

Corporate Social Responsibility の略。企業の社会的責任。持続可能な社会を実現するためには、経済的な責任だけでなく、環境的、

社会的な責任も果たす必要があるという考え方。自社の商品やサービスなどによって社会的な課題解決を図る「本業を生かした CSR」や社員一人ひとりが CSR 活動にかかわる「社員参加型の CSR」が、NGO が企業と協働する上でのキーワードとなってきている。

### 社員参加型の CSR

社員の社会参加を支援することを目的とした社会貢献は 1990 年代以降、大きな潮流となっている。社員の目を会社の外の課題にも向けることによって、CSR の担い手として感性や問題意識を養っていくことができるのではないかという期待もある。

### 本業をいかした CSR

自社の商品やサービス、技術、設備、ノウハウ、情報、人材などをいかして社会的な課題解決を図る社会貢献の展開が求められる。株式会社電通からポスターのデザイン、キャッチコピー、広報展開のアドバイスをいただき、実施したキャンペーン「ジュートエコレジバッグキャンペーン」（2005 年）も、この一例。

### 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム

2008 年 7 月北海道の洞爺湖で行われる「主要国首脳会議」（G8 サミット）に向け、環境、平和、人権、世界の貧困問題の解決と開発などの地球規模課題に取り組んでいる 126 の NGO（2008 年 4 月 22 日現在）が集まってつくられたフォーラム。シャプラニールは貧困・開発ユニットの運営 NGO として参加し、キャンペーン活動、具体的には「100 万人のたんざくアクション」を通じて、市民が地球規模の課題を知り、行動を起こしてもらうための意識啓発と、意見表明の機会の提供に関わっている。

### ビッグイシュー（BIG ISSUE）日本版

1991 年にロンドンで誕生し、日本では 2003 年 9 月に創刊された「ホームレスが売る」雑誌。ホームレスの人々の救済（チャリティ）ではなく、仕事を提供し自立を応援している。

### ブランドステートメント・タグライン

ブランドステートメントとはシャプラニールのアイデンティティや提供する価値を明文化したもの。シャプラニールの活動に関わる人々や社会に約束する価値を分かりやすい文章で表現している。タグラインはブランドステートメントを一行に凝縮したもの。

特定非営利活動法人



＝市民による海外協力の会

◆東京事務所（火曜日から土曜日 10:00～18:00 月曜・日曜祭日定休）  
169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内  
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593  
E-mail [info@shaplaneer.org](mailto:info@shaplaneer.org) Web site <http://www.shaplaneer.org/>

◆ダッカ事務所  
9/19 Iqbal Road, Block-A, Mohammadpur, Dhaka-1207, Bangladesh, G.P.O BOX 332

◆カトマンズ事務所  
Kupondole, Lalitpur, Nepal, P.O.Box23884